

2020年度 卒業論文

コロナ禍における学生の学習意欲及び 生活環境への影響に関する実態調査

大阪産業大学 デザイン工学部 情報システム学科
情報教育システム研究室

17H013 市川結香

コロナ禍における学生の学習意欲及び 生活環境への影響に関する実態調査

17H013 市川結香

1 はじめに

2020年度でどれだけかの大学が安全にリモート授業を行っているか、大学に通えない割合はどのくらいなのか。文部科学省の統計 [1, 2] によると、前期は国立大学・公立大学・私立大学・高等専門学校全 1,069 校における調査で、全面的に対面授業もしくは非対面授業だったものは各自 2 割を占めた。対面と非対面の併用が 6 割という結果。後期は国立大学・公立大学・私立大学・高等専門学校全 1,060 校における調査で、ほぼすべての大学が授業を実施。その内 8 割の大学が対面と非対面の併用を実施。全面的に対面の割合は前期と変わらず 2 割を占めた。この前年までとは違う状況が本学科の学生にどのように影響しているかの調査を行った。

2 目的

本研究の目的は、コロナ禍での学生の学習意欲の変化や、生活環境への影響がどのように及んでいるのかを調査することである。COVID-19^{*1} 拡大に基づく、大学側の判断。及び、前期授業が基本的に全面非対面という状況の学生に対する影響を多方面から考えた。影響は主に“授業”“学生生活”“環境”の三つと考える。調査する上で学生に聞くことを明確化し、内容にまとまりを持たせるという理由で仮説が必要と考えた。

3 検証結果

検証には Google フォームを用いて仮説を元に作成したアンケートを用い、18H と 19H の学生に協力していただいた。アンケート期間は 10 月 5 日から 10 月 19 日とした。結果としては仮説と相違することは少なかった。学年で回答に違いが見られる項目もあった。全体的に 18H は昼夜逆転率が高く、授業後“ゲームを

していた”や課題に対する不安要素が“期限”ということ踏まえると、だらけた生活を送っていたと考えられる。19H は課題に対する不安要素が“量”であったり、授業後“課題をしていた”などを踏まえると、慣れない環境の中頑張っていたと考えられる。

4 まとめ

仮説を“課題が多く大学や日々の生活に対して不安が多い”“持ち物・準備物が少ない為忘れ物をしない”“大学に行かないので人脈が広がらない・だらけやすい”“また面と向かわないので質問がしやすい”とした。アンケートの結果としては、“だらけやすい”“質問しやすい”という点のみ、仮説とは異なる結果となった。“だらけやすい”は、主に 18H の学生に多く現れた。昼夜逆転率 19H の学生と比べると高かった。“質問しやすい”は、18H も 19H もしやすいと答えた学生は全体の 1.5 割という結果となった。

実態調査の詳細は卒業論文にまとめて掲載している。

参考文献

- [1] 文科省. 新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた大学等の授業の実施状況. https://www.mext.go.jp/content/20200717-mxt_kouhou01-000004520_2.pdf, 2020.
- [2] 文科省. 大学等における後期等の授業の実施方針等に関する調査結果 (地域別). https://www.mext.go.jp/content/20201002-mxt_kouhou01-000004520_3.pdf, 2020.

^{*1} WHO での新型コロナウイルス感染症の呼称

目次

1	はじめに	1
2	目的	2
3	仮説の導出手順	3
3.1	KJ法	3
3.2	KJ法-ラベル化	4
3.3	KJ法-グループ化	5
3.4	KJ法-図解化	8
3.5	KJ法-文章化	12
3.6	文章化から仮説へ	33
4	仮説	34
5	検証	35
6	仮説に沿った結果と考察	36
6.1	人脈が広がりにくい	36
6.2	やる気が下がる	38
6.3	準備物・持ち物が少ない、忘れ物をしない	42
6.4	遅刻をしない	46
6.5	だらけやすい	47
6.6	課題が多い	50
6.7	大学生感・大学生活感が無い	52
6.8	不安が多い	54
6.9	質問がしやすい	57
7	まとめ	58
8	今後の課題	59
付録 A	付録 1	62
A.1	アンケートのお願い文	62
A.2	アンケートを始める前の注意書き	62
A.3	各セクションにおいての注意書き	62
付録 B	付録 2	63
B.1	アンケート本文	63
付録 C	付録 3	68
C.1	文科省関係のグラフ	68

1 はじめに

2020 年度でどれだけが大学が安全にリモート授業を行っているか、大学に通えない割合はどのくらいなのか。文部科学省の統計 [1, 2] によると、前期は国立大学・公立大学・私立大学・高等専門学校を含む全 1,069 校における調査で、全面的に対面授業もしくは非対面授業だったものは各自 2 割を占め、対面と非対面の併用授業が 6 割という結果。後期は国立大学・公立大学・私立大学・高等専門学校を含む全 1,060 校における調査で、ほぼすべての大学が授業を実施。その内 8 割の大学が対面と非対面の併用授業を実施。全面的に対面の授業を行ったのは残りの 2 割だった。この前年までとは違う状況が本学科*1 の学生にどのような影響を及ぼしているのかの調査を行った。

第 2 章では本研究の目的について述べる。第 3 章では仮説の導出過程を述べる。第 4 章では本研究の仮説について述べる。第 6 章では仮説に沿った結果と考察を述べる。第 7 章には研究についてのまとめ。第 8 章には今後の課題についてまとめる。

*1 大阪産業大学 デザイン工学部 情報システム学科

2 目的

本研究の目的は、コロナ禍での学生の学習意欲の変化や、生活環境への影響がどのように及んでいるのかを調査することである。COVID-19^{*2} 拡大に基づく、大学側の判断及び、前期授業が基本的に全面非対面という状況の影響を多方面から考えた。影響は主に“授業”“大学生活”“環境(私生活も含む)”の3つと考える。調査する上で学生に聞くことを明確化し、内容にまとまりを持たせるという理由で仮説が必要と考えた。

^{*2} WHO での新型コロナウイルス感染症の呼称

3 仮説の導出手順

KJ法を用いて、ラベルとして書き出した項目をどのようにして仮説として導出したのか、その手順を記す。

3.1 KJ法

ブレインストーミングでラベル化された多くの意見・アイデアをグループ化し、論理的に整序して問題解決の筋道を明らかにしていく手法。バラバラに集められた多くの情報に対して「ラベル化 グループ化 図解化 文章化」のステップを踏むことで情報同士の関係性を視覚化し、本質的な問題や解決法の発見、アイデアの創出をすることができる。収束的帰納法の中では最も代表的な技法とされている。KJ法の順序を図1に示す。



図1 ブレインストーミング以降の仮説を立てるまでのKJ法の手順。左から順に進めていくことによる的確に情報の整理、分類ができ簡潔な導出が可能。

3.2 KJ法-ラベル化

対面では101個、非対面では119個、ブレインストーミング(以下「BS」と略す。)によって現状(非対面)と通常(対面)の「可能なこと」「困ること」「不可能なこと」等の項目を書き出した。BS後のラベル^{*3}一覧を図2に示す。今年度の前期授業を複数履修している、同期先輩を含む4人の学生にも協力を得た。予想では対面(通常)にメリットが、非対面(現状)にデメリットが多いと考えていたが、意外にもメリットデメリットの数の差はほとんど無かった。

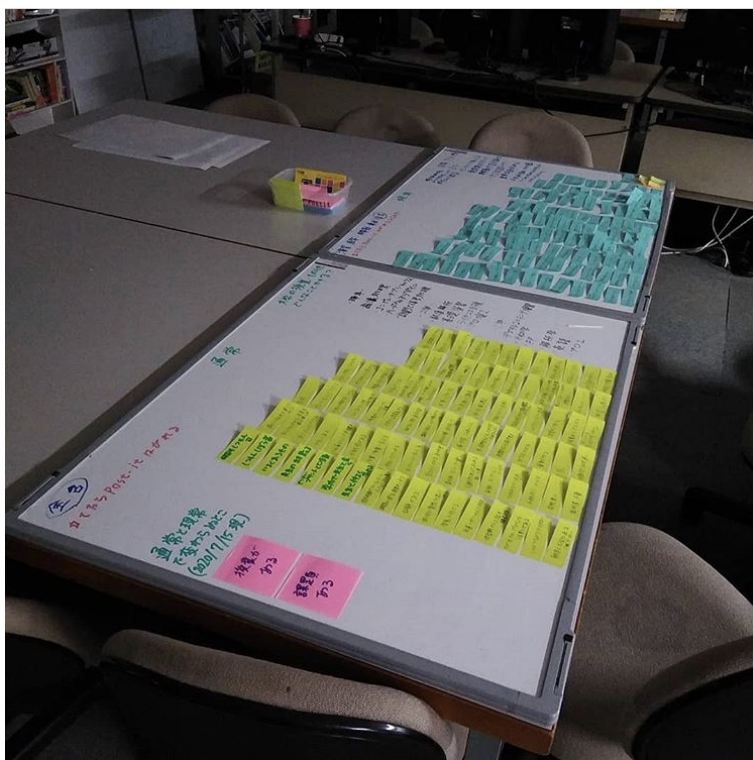


図2 前年までの対面期間・今年の非対面期間の影響をラベルとして書き出した結果。影響とは授業のみではなく、大学・家での行動、生活も含む。画像手前の黄色は前年まで、奥の青色は今年の影響を書いたラベルである。図の手前にある桃色ラベルは、2020年7月に対面と非対面の類似点を記入したもの。“授業がある”“課題がある”ことを類似点として列挙していた。

^{*3} BSによって出した項目

3.3 KJ法-グループ化

グループ化するために関連性のあるものをまとめて表札を付ける。表札は一目で見て何を意味しているグループか理解できないといけないので、「堅苦しい言葉は使用しない」「内容を抽象化しすぎない」等を守りつつ、まとめたラベルの要約であることが条件である。それに沿って、対面では 35 個、非対面では 54 個、の表札を付けた。表札を付ける際は一つの表札に対してラベルは 2-4 個と決めた。グループ化するためには表札ごとにまとめ、最終的に全てのグループが 10 個前後になるようにする。

次に表札を見て、関連性のあるもの同士を引っ付けて配置した。最初から大きなグループでまとめるのではなく小グループにまとめ終えてから、まとまりを大きくしていく。小分けから大分けにしていかないと、正しい解釈ができないためである。また、どこのグループにも混じれないものについては最後まで放置で良い。グループ化の目的は分類ではなく連結。結果、対面では 14 個、非対面では 13 個のグループにまとめることができた。表 1 に示す。対面、非対面のグループ化は図 3 と図 4 にそれぞれ示す。また、まとめたグループの更なる関連性を示したものを図 5 で示す。

表 1 グループ化した結果の項目

対面（通常）	非対面（現状）
・質問	・リアルタイム
・人脈	・家でのこと
・研究室	・人任せ
・授業関連	・文面
・行動が自由	・利点
・大学外での教授との交流	・自由な授業
・先生	・人と会わない
・移動中	・自主学习で成り立つ
・困る	・授業の捉え方
・放課後、課題	・不安
・学食	・学内のイベントが無くなる
・試験	・先生
・大学へ行く準備、直後	・大学生感がない
・大学生感	



図3 対面(前年まで)の“学生生活”“授業”“環境”におけるラベルをグループにまとめた図。ピンク色のラベルは小グループにまとめた際の表札。

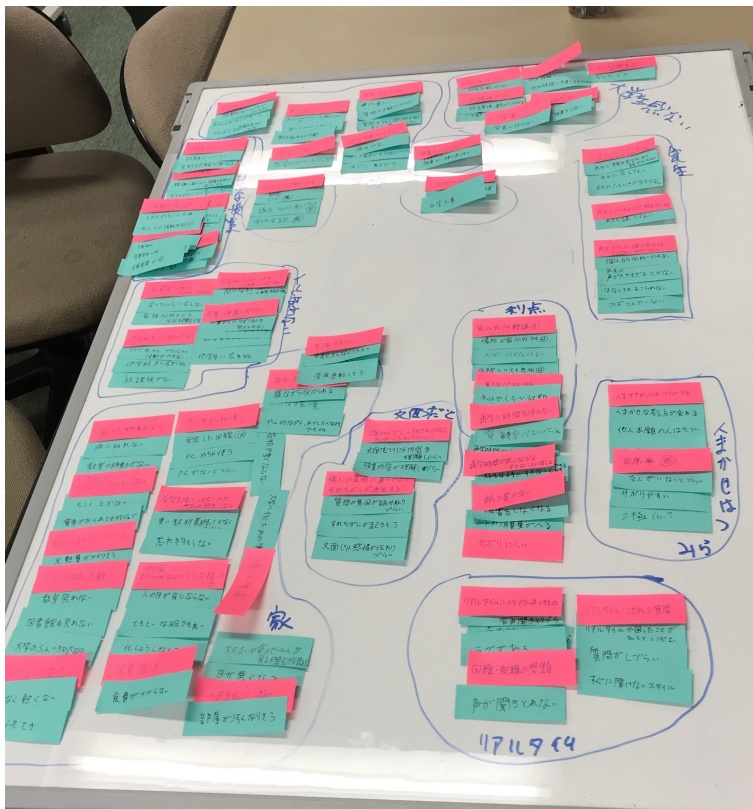


図4 非対面(今年)の“学生生活”“授業”“環境”におけるラベルをグループにまとめた図。ピンク色のラベルは小グループにまとめた際の表札。

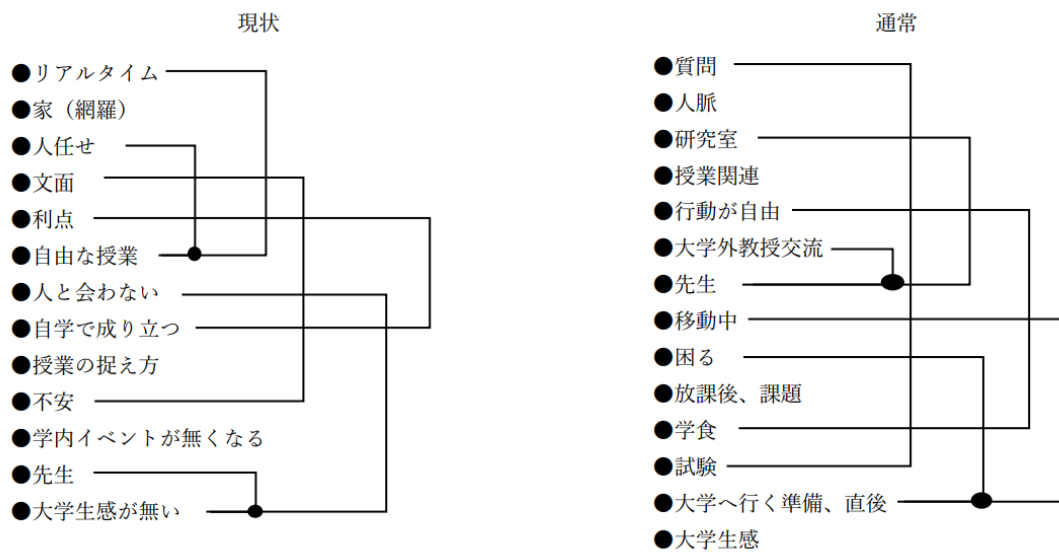


図5 KJ法-グループ化直後の項目。関連性があると仮定した項目を結んだ線。“現状”は非対面、“通常”は対面を表す。

3.4 KJ法-図解化

グループごとに全部のラベルを見返し、グループは違えど関連性のあるラベルのフレームワークを行う。この作業はグループ化とは反対に大グループから小グループの順に進めなければならない。配置・矢印の種類には特に気を付け、視覚的に分かりやすいようにする。また、同じ配置の物もあるので因果関係なら「因」、同値なら「同」と矢印の上に記載した。フレームワークの種類はいくつかある。フレームワークを図6^{*4}に示す。

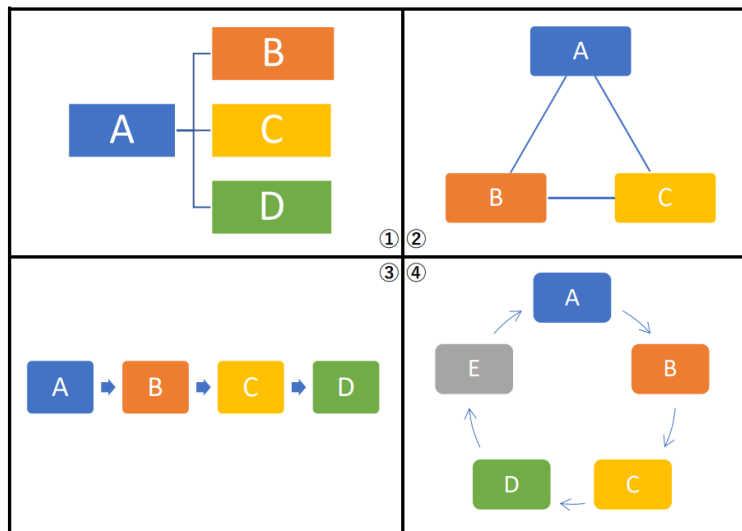


図6 KJ法の図解化の際に用いるフレームワークの種類。中央にある番号順に、ツリー型・サテライト型・フロー型・サイクル型。各型の詳しい説明は下に記す。

1. ツリー型

要素をレベル的に分類。階層状に示す図形パターン。論理的な構造を示す。

2. サテライト型

要素の相互依存関係を示す図形パターン。全ての要素が必要であり、主従関係がなく各々が対等の関係性を持っているとき。

3. フロー型

時間的な流れを示す図形パターン。左から右、上から下の順に進行する。

4. サイクル型

循環的な流れを示す図形パターン。何度も循環を繰り返すとき。

^{*4} 画像内の A～E までのアルファベットや色は、分かりやすくするためのものであり特に意味はない。

図解化の際、使用する矢印と意味を図7に示す。

意味	図
影響の順序	
交換/往復	
つながり	
対立/強調	
過去/予定	
影響の強さ	

図7 図解化の際に使用する矢印一覧。影響の強さの矢印はその矢印の太さが強さを表す。

矢印の他に、「原因・結果・相関・類似・反対」の言葉も書き込み視覚的に分かりやすくする。

配置に重点を置いていたが、図解化が進むにつれて全体を大きく覆うように関係するラベルも出てきてしまったため、後半は矢印の意味にも注目して作業を進めた。その結果対面では 65 個、非対面では 55 個、のグループが生まれた。対面の図解化を図 8 に、非対面の図解化を図 9 にそれぞれ示す。



図 8 対面の図解化の図。カタカナをふっているのはグループごとに分ける意味とグループ数を分かりやすくするため。合計 65 個のグループを作成。濃い桃色・黄色・水色の付箋は表札、オレンジ色付箋はラベルを表す。



図9 非対面の図解化の図。カタカナをふっているのはグループごとに分ける意味とグループ数を分かりやすくするため。合計55個のグループを作成。濃い桃色・黄色の付箋は表札、オレンジ色付箋はラベルを表す。

3.5 KJ法-文章化

3.5.1 短文化-非対面

図解化後のグループをノートに短文化して記入していく。図解化のグループ1つにつき短文は2-3個にする。2-3個にまとめられなければ1文でも可。短文は図解化で使ったラベルをキーワードとして、必ず文に含めることを条件とする。

短文化のカタカナは関連図に記載しているカタカナ、図解化のグループ名のカタカナ、は同じもの。ただし、対面の“ア”と非対面の“ア”は違うもの。なお理解を優先して記入した為、文脈がおかしい点が多々ある。また、一部対面授業を受ける等の項目は、文末に担当教員名と授業名を記載している。

○対面の短文化を下記に記す。

ア

クラブをすると友達が増える。クラブ等に入ると人脈が広がる。友達が多いとクラブ活動が楽しい。大勢の仲間ができる。

イ

クラブ・サークル等の新歓で見つけ、入ってみる。クラブごとに新歓会があり、仲を深められる。色々なクラブ、先輩方、同期の姿を見られる。

ウ

先生は基本的に大学まで会う人である。特に他学科の先生は、1年生の教養科目以外ではめったに会わない。同じ学科生は学科の建物内で会うこともあるが、他学科生は基本、大学内でしか見かけない。(会わない)

エ

他学科生とはクラブ活動を通して出会うことが多い。クラブは所属学科を決めていることは無い為。比率が多い等のことはある。

オ

学科をこえたタテの繋がりができる。またヨコのつながりもできる。同学科内では普段見られない一面をみたり協力することで絆が深まる。他学科の先生が顧問の場合も親しくなれる。同学科の先生が顧問の場合、気にかけてもらえたり、気に入ってくれたりする。

カ

プロジェクト等の活動中、文化祭の時間、先輩と過ごすことによってタテの繋がりが広くなったり、強くすることができる。分からないことは先輩に聞くと大体解決できる。

キ

大学に通うと人脈は広くなりやすい。(自身や協力者を見て感じた)

ク

授業は内容が面白く無かったり、意味不明すぎると暇でしかない。その場合「寝る」「喋る」「携帯電話を触る」等をする学生を見てきた。「喋る」に関しては怒る先生とそうでない先生がいる。怒る先生はめっちゃ怒るがそれでも聞かない場合もあり、周囲の学生のいい迷惑である。

ケ

課題の一部を授業中に解説しながらしたり、授業中に提出したりすることも多く、家でやる。課題の量が比較的少ない。

コ

授業前、授業後、授業中に出席確認として学生証をスキャンする場合もあり、学生証は必須アイテムである。

サ

授業とは友達づくりの場として良いものだと。少人数であり、同じ授業を取った者同士や席がたまたま前後だったり、あるいは大人数であるけど、グループでプレストしたり、企画提案したり、評価したりするものもあるので、友達づくりの場になるのではないかと。

シ

授業開始の1分前になっても教室が開いてないことはよくあり、その場合教室の前での待ち時間が発生してしまうことはよくある。

ス

授業があって、クラブ活動があった場合、朝早く起きて早くに大学にきて授業を受けて、クラブ活動をして帰るというルーティーンが確立できるのでは無いかと思う。

セ

課題が少ししかない代わりに試験がある。成績を付ける際、試験の点数の割合が高め。授業が多めな気がする。

ソ

授業開始直前になっても教室が開いていない場合、その日の全部の重い荷物(教科書)を持っていると辛い。また、6限に補講がある時、普段なら帰っている時間に授業を受けることは面倒くさい。影武者学生を用意する人もいるし、先生もしんどいのか出席確認だけを成績に入れる先生もいる。面白くない先生の授業は時の流れが遅い。

タ

#なべとはあんどる研究室内では料理をし、それを皆(OB・先生・学生)で食べ交流を深めるものである。学業とごっちゃんにはしない。

チ

研究室では常に4回生の先輩がいるので、先輩と楽しく過ごすことができる。また、研究室内の本を借りる事ができる。ジャンルは様々で借りるためには条件をいくつか満たさなければならない。また、先輩のお古の教科書を貰うことができ、教科書代が浮く。某研究室には#なべというシステムがあり居候でも配属生でなくても参加できる。OB・教授・先輩後輩との仲を深められる。夕ご飯代が浮く。

ツ

研究室のメンバーで旅行に行ったり、本を買いに行くパンケーキの会があったりし、先輩や同期との仲を深められる。

テ

補講が6限であったり、クラブ活動、講座、家での環境が無く課題を大学でやる場合、帰宅時間が遅くなる。

ト

補講が6限であったり、クラブ活動、講座、課題は全て授業が終わった放課後にすることである。

ナ

15号館から考えて本館が遠く15分かかる。休憩時間が10分なのに、移動時間が15分かかり、そこにトイレや買い物の時間を足すと圧倒的に間に合わない。

ニ

15号館から本館まで徒歩15分かかる。歩き続けて。

ヌ

重要な施設、学食のほとんどが中央キャンパスに集結。教務課、キャリアセンター（本館のみでできること）。

ネ

空きコマ、授業の移動時間、放課後、基本的に行動に自由がある。また、構内に入れ学食や演習室、図書館に自由に出入りでき、大学生活を送っている感がすごいある。

ノ

授業中、教室内のガヤガヤ声、うるさくない程度の声は逆に安心する。自分と同じくらいのレベルの学生が近くにいる感じ。教室の温度が適温だった場合は快適である。

ハ

教室と教室の移動は、授業中に入る教室以外の場所は基本的に夏は暑く、冬は寒い。

ヒ

1年生、2年生は取る授業数が多いので伴い、教科書の量も多くなり荷物が重たくなる。サボらなければ、3年生の後期ではほぼ取らなくて良いが、サボった場合は4年間重い荷物とともに過ごさなければならない。

フ

毎日の弁当作りは面倒だが、作ると昼ご飯代がやすつく。逆に弁当を作らなかった場合、家では作れないクオリティの昼食を安く食べられる。

ヘ

短い試験時間のわりに、大学への移動時間が長い。

ホ

雨によって交通の乱れが起こる。JRや近鉄バス等が主に遅れる。成績に響かないにせよ授業終了20分前に教室に到着は勘弁してほしい。また、傘が必要。折り畳み程度の雨ならまだしも、大きい傘がいる場合、持ち運びが面倒。濡れる。傘を置き忘れることも。

マ

1限の授業を受けるために大学へ来る。1限だと9:00スタートなので、朝早くに大学に着かないといけない。

ミ

学食へ行くと、家やお弁当では食べられない、作れないものを食べることができる。また、綺麗な洒落な場所に行ってたくさんある料理を選ぶ楽しみがある。

ム

学食で授業や授業外の話をし、情報共有の場として使える。また、話をすることによって交流を深めることができる。学食では他学科生、高校生を見かける事がしょっちゅう。

メ

空きコマに自由に行動できる。昼休み以外の時間に学食に行く、図書館に行く、演習室に行く、大学外へ食事に行く、遊ぶ。

モ

質問する人は、授業後に聞きに行ったりメールで聞いたり、自ら動く人が多く意欲的な学生が多い。

ヤ

クラブ活動、補習、講座をするのに一番適している時間は放課後である。

ユ

どのクラブ・サークル・プロジェクトにおいても新歓はある。大学からその期間が設けられる。

ヨ

同じ学科の全く知らない者同士がたまたま同じクラブに入っていた場合、ヨコの繋がりが広がり交流も強まる。常に一緒に居なくても気かけあう存在となる。

ラ

昼休みに図書館へいたり、早めに教室へ行って勉強したりなど、特に何かをしておかなければならないという制限はないため自由に行動できる。

リ

昼休みに学食以外の大学付近のお店へ行ったり昼休み時間外に昼食を取ったりするなど行動の制限がない。

ル

授業と授業の間や授業が始まるまでの時間を研究室で過ごすこともできる。自由度高め。

レ

某研究室では月1のペースで#なべをする。一緒に夕食を食べ学生同士のタテヨコのつながりや、学生と先生の交流を深められるものであり、授業とは違った雰囲気の良い空間。

ロ

#なべは基本的に21:00に終わる。研究室の退出時刻が21:00なので、#なべのあと片付けは20:30ごろに始まる。その結果21:00過ぎで家に帰る頃には22:00を過ぎている場合が多い。

ワ

1限から始まる授業の日の前の日の夜は、早く寝ないといけない。そのほうが1限の授業中に寝る確立を減らせる。寝たら授業内容を理解するのが大変。早朝に起きるため。

ヲ

大学へ行くために準備をする。その為に早く起きる。

ン

準備とは、服装を決める、持ち物チェック(救急セット・薬・生理用品・ハンカチ・ティッシュ・メイクポーチ・財布・傘・教科書・ノート・筆記用具・PC・充電器・携帯電話・イヤホン)、身だしなみをチェック(髪型・メイク・アクセサリー・ひげ・清潔感)。

ガ

対面での質問は自分の好きなタイミングで聞ける。その場で聞けるのでフィードバックが早い。また、担当

の先生の部屋に行ってアポを取れば個人的に質問もできる。タイミングとしては、手をあげたり、声に出したりすると良い。

ギ

その場で聞いたり、フィードバックが早い分何回も質問ができる。また、何個でも質問可能で理解出来るまで聞ける。また、質問内容であったり、その際の服装話し方等で覚えてもらいやすく、気にかけて貰える。同じ席に毎回座っているとかでも

グ

研究室内、学科内の先輩や先生とのタテの繋がりが強くなると、旅行へ行ったり、大阪市内へ本を買いに行くツアーへ参加しやすくなる。

ゲ

本を買いに行くツアーであったり、旅行であったり。行けば先生の普段とは違う一面を見ることができ、先生との交流が深くなる。

ゴ

先生と仲良くなると気にかけて貰えたり、良い意味でいじられることもしばしば。

バ

先生と仲良くなれると、大学外での交流もできる。

ビ

大学では先生と出会い、授業を受ける。大学内で先生の姿を見ることが時々ある。顔が見れる。

ブ

学内の教室から教室、館から館の移動は基本的には歩きであり、距離があるのは大変だがその分運動になる。帰宅部や文科系のクラブの学生ならなおさら。

ベ

移動は基本学内。周辺の道を通っても何の問題もないが、最短のルートでもある場合もある。防犯上でも良いかも。

ボ

通学時間が長く、家を出る時間を間違えてしまったり、昨夜夜更かしして起きられなかったり、雨や人身事故等により、遅刻する確率が高くなる。

バ

前期・後期の各1回、もしくは前期中に2回試験をすることもあるが、試験をする分、日頃の課題の量はそれほど多くない。試験範囲の細かい所や試験の答えさえも教えてくれる授業もある。また、課題内容がそのまま試験内容になることもある。試験当日や1週間前は緊張する。成績の割合の内試験の割合を多くして科目が多い。

ビ

試験の学期末に1回するのではなく、間にミニテストを挟んだり、逆にミニテストしかなかったり、挟まなかったりする場合もある。試験をしない代わりにレポートを提出しなさいという先生もいる。

ブ

期末テスト中にカンニングをする学生もいたりする。学期末テスト期間中であろうとなかろうと、テスト中

にカンニングをし、ばれた場合、その学期中にやるテストの単位はすべて無効となる。

ペ

部活内で喧嘩をすると少々面倒。

ポ

先生の顔が見え、表情、ジェスチャーのすべてが分かる。資料とあிட்ட口頭での説明は理解しやすく感じる。

○非対面の短文化を下記に記す。

ア

準備し忘れ、遅刻する。準備をしたつもりが忘れ物をしていた。準備に時間がかからない為、遅刻しない。準備の量が少なく、家なので忘れ物なんてしない。

イ

大学構内の雰囲気分からないので大学生感が無い。大学構内に立ち入らないので大学生生活感が無い。

ウ

リアルタイム授業にはPCが必要。スマホだと不自由に感じる。

エ

家～大学、教室～教室へ移動することが無いので忘れ物をしない。

オ

寝ながら、食事しながら等の体勢、パジャマ、下着 only 等の恰好でも受けられる自由な授業。カメラを off にしておけば良い。

カ

家族以外の人と基本会わないので恰好がラフになる。その他、化粧しない等。

キ

家の部屋で受けるため、室温を快適にできる。移動中、バスや電車が暑かったり、移動教室の時(夏・冬)気温を気にしなくて良い。集中力UP!

ク

学食へ行かない。同学科の仲間や先輩・後輩と食事しながら相談等もできない。学食で他学科の人も見かけない。

ケ

学科棟内、演習室、大学構内で先輩・後輩と会わないため交流を持ちづらい。先輩に相談できない。教科書を頂けたり等もない。

コ

授業を家で受けることは、利点ばかりではない。

サ

授業は行っているが、授業後質問したり、研究室をのぞいたり等の学生からの個人的なアプローチがづらい。

シ

授業を映像や音声で残す授業もあり、要点や話を繰り返し確認できる。授業中の要点も写真として残っているものも多く、特に slack は過去の会話も見れるため良い。今回のような事態で大学側も初めてかつ要領が分からない部分も多く、試験は無い。試験が無い分、課題が多く、命取りになりかねない。

ス

非対面の授業ゆえ、課題がとても重要。課題を提出するのが授業という感じで同学科内で情報共有が必須感

が凄い。SNS 等で情報共有。独自の Discord サーバを立ち上げたりもしている。

セ

授業は全て非対面 (オンライン) だが、一部許可制で対面の授業もあり、授業を受ける人数や各テーマの定員が少人数。大学に来るのが面倒であったり、感染リスクを減らす目的等の人数である。

ト

質問や意見をチャット・メールで。質問の内容や個人しか見れないメール等での質問をすると答えてもらえない場合もある。

ナ

大学に通って何かをするということがなく、また、課題 = 授業のように授業らしい授業をしないため、大学生活を送っているように感じない。授業を受けている感じのメリハリも無い為大学生活をしている感じが無い。長い春休みの延長みたい

ニ

休み時間・空きコマ・という概念が無い為、その時間に学食に行くこともない。逆にこの概念が学生生活にメリハリを付けていたのかも知れない。

ヌ

休み時間・空きコマ・放課後が無い為、1日のスケジュールにメリハリが無く、授業を受けている感じがしない。ずっと春休みみたいな感じ。

ネ

学食は特に中央キャンパスに行くと文系学部の人を良く見る。休み時間・移動時間も他学部・先生・高校生・売店の人を見る。放課後がないため、サークル・クラブ・プロジェクト活動も出来ず、人との繋がりもない。

ノ

ノートに板書したり、プリントに記述して、その場で提出したりしないため、全体的に「書く量」が減る。紙に書かないことが授業っぽくない。ノートの使用量が減り、ノート代がかからない。

ハ

文面 only だと不安。個人の捉え方の違いで、すれ違いが起き先生の伝えたいことと学生の行動が合わなくなってくる。文章だけじゃ、声のトーン・表情・ジェスチャー等が無い為伝わりづらい。

ヒ

大人数で教室で受けるのではなく少人数なので孤独を感じやすい。周囲の学生の課題の出来が見えないため、自分だけが過度に出来が悪いように感じてしまい、不安になる。今年、このような全面オンラインが初めてなので単位が取れるか常に心配。これらの要素を元に考えると、真面目な人こそ、思い込みのせいで病みやすい。

フ

大人数だと感染の怖さがあるが、オンラインなので不安は少ない。

ヘ

基本質問はチャット。リアルタイム授業では普段質問しづらくても、顔が見えない分質問しやすい。オンラインでも、リアルタイムでない授業は質問がメールであり、返答に少々時間がかかる。いざ質問したいとき

にアドレスが書いていなかったりして質問できない等のトラブルも発生している。

ホ

大人数で教室でワイワイ・がやがやとしながら、聴覚的・視覚的にも出来の分かる雰囲気無しが孤独。

マ

いつも人任せにし、影武者等で単位を取っていた他人本願な人からすればかなり大変な事態であると考えられる。考え方を改める良い機会となるだろう。オンラインで顔が見えず、声が聞こえずなのでサボりやすい。その結果、出席率が悪い。今年は中退者が多そう。

ミ

教授からの個人的な声かけ等はチャットでは行いづらいため、教授側も大変。学生側は他学生よりも有利に動くなれてことできづらい。

ム

文章だけのやりとりはすれ違いや勘違いを起こし、伝わりづらいため質問しづらい。

メ

先生～学生間の会話等が伝わりづらくすれ違いを起こしやすく、トラブルになりやすい。

モ

時間の活用のしかたが自由。基本的に課題を出せば良いので自学が大事。大学～家までの移動時間が自由となったので、その余った時間を有効活用できる。息抜きしやすいともいえ、逆にしにくいとも取れる環境。

ヤ

家もしくは家以外でも授業は受けることは可能であるが、通信環境がしっかりしていないと支障が出る。

ユ

通学に使う時間を自由に活用できるため、時間の使い道の自由度は高い。ただこのご時世での行動の自由度は低い。通学時間を1時間～2時間半ほど使っていた学生にとってはありがたいかも。朝早く起きなくてもよい。ついでに通学のためのお金もいらなくなる。

ヨ

チャットは発言しやすい。お互いの顔が見えないことで抵抗が少しでも無くなるらしい。プレストに関してはチャットの方がよく意見が出るといったデータが出ている (FP：山田 T)

ラ

課題をするにも授業を受けるにも安定した通信環境はあることにこしたことはない。

リ

大学と違い各家庭の通信環境は異なり、リアルタイムで webclass で出席をし、課題提出しなければならない授業に関しては、途中で再起動やシャットダウン、フリーズした等でトラブルが絶えなかった。

ル

授業終了後にすぐ質問に行けないため、先生の雰囲気を課題の出し方や、授業の仕方等でつかまなければならない。先生との距離が詰めづらい。

レ

先生に姿を見られることもなく、認知してもらいにくいいため、サボりやすい。

ロ

先生・学生共に顔が見えない。また、授業中や課題等で頑張っている過程を見てもらえない。結果が全ての状態。前年よりも難易度は上がっている。

ワ

監視されているわけではないので、小テスト等がある場合でも調べ放題。

ヲ

大学の OC、就活ガイダンス、講座等の中止。教授の雰囲気は授業が無くなったことにより不明。学生は、大学・教授の二つの雰囲気が分からない。大学構内にも入れない。

ン

大学の行事が無い為雰囲気が分からない。

ガ

先生にメールで質問しても、個人的にヒントを教えることになってしまうため、教えられない。鼻屑になってしまうと言われ質問に答えてもらえない。

無

昼夜逆転等で生活習慣が乱れそう。ひとり暮らしの学生は光熱費が上昇しそう。

研究室

許可制。時間制限。マスク必須。ソーシャルディスタンス。自由な時間に来られない、長時間入れない、#なべが出来ない、他研究室の学生を見かけない。

大学

東・中央キャンパス：許可証が必要。マスク必須。時間制限あり。37.5 ° C 以上の人は入れない。演習室使用・演習を受けるにも予約が必要。

1

教授からのアプローチは課題の出来次第。ユーモアな点はあまり見られなさそう。(フィールドプラクティス:山田 T)

2

アンケートをやっている最中のなのか終わっているかの判断が出来ない。(フィールドプラクティス:山田 T)

3

画面越しに場所を伝えるのは難しい。(情報システム応用演習：杉山 T)

3.5.2 短文を文章へ

図解化のグループの短文の中身を見返して、全体的・部分的に関連性のあるグループにお互いに印を付ける。印を付けたもの同士でまとめる。箇条書きにするのではなく、あえてメモのように記すことで視覚的に一瞬で分かるように工夫する。Aのグループの2個目の文とBグループ全体が類似していたり関係していた場合も見据え、関係性が即座に分かるように図と矢印・記号を駆使して関連図を作成する。対面の関連図を図10、図11、図12、図13に、非対面の関連図を図14、図15、図16、図17にそれぞれ示す。

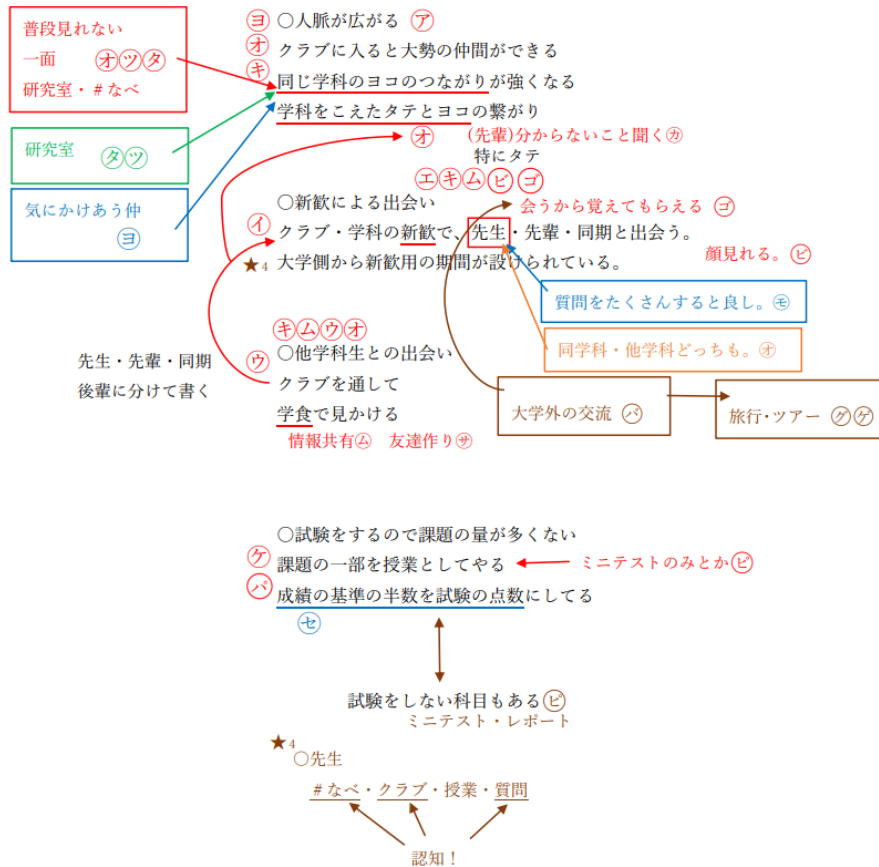


図10 対面の関連図の1つ目。この図では“人脈”“試験”を軸として関連性をメモ書きのように記している。

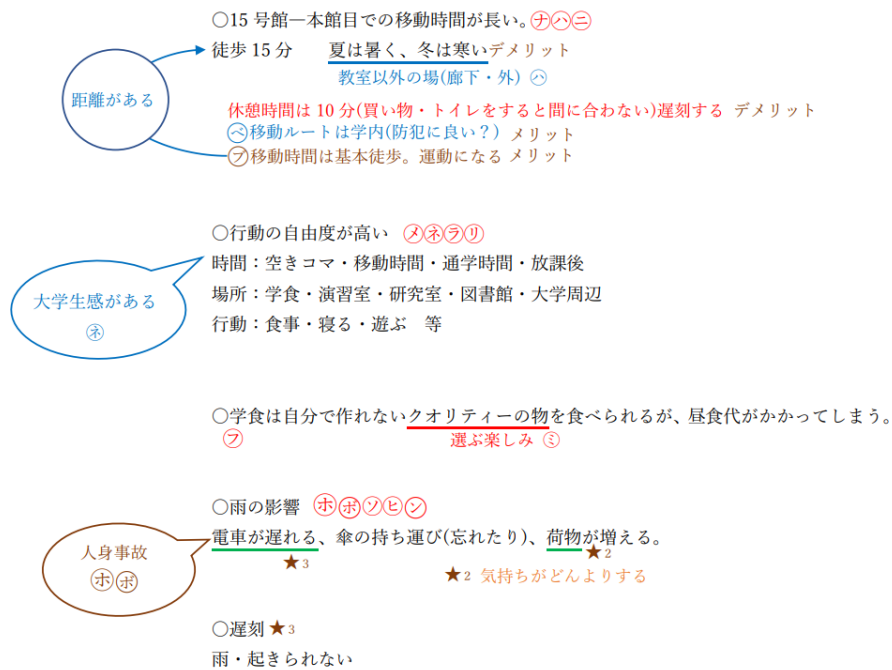


図 11 対面の関連図の2つ目。この図では“行動”を軸として関連性をメモ書きのように記している。

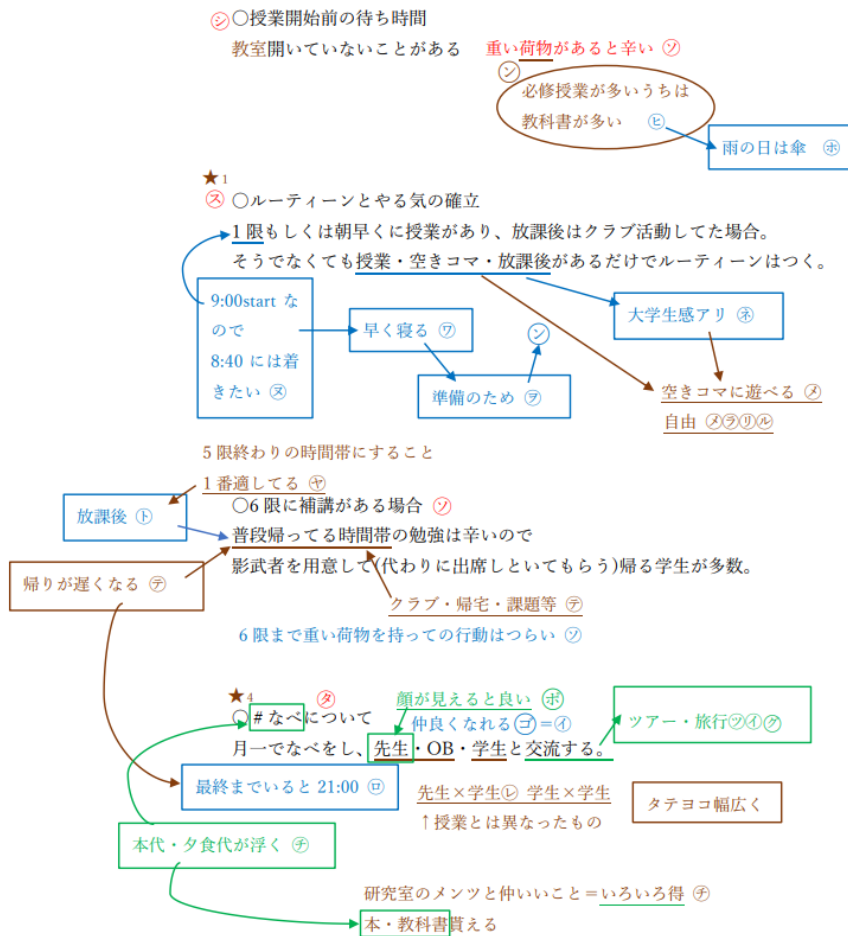


図 12 対面の関連図の3つ目。この図では“時間”“放課後”“なべ”を軸として関連性をメモ書きのように記している。

- 準備・持ち物の多さ (シ)
- ★2 ・学生証 出席確認(授業・テスト必須)㊦
- ・傘 雨の予報だとタオル・替えの靴下も㊧
- ・1年～3年の前期まで 大量の教科書㊨
- ・他人の目がある場所へ行く (お洒落・服装)
- ㊩ハンカチ・ティッシュ・財布・教科書・イヤホン・筆記用具・PC・充電器・バッテリー・ノート
- ㊪メイク用品・日焼け止め・生理用品・薬・救急セット
- ㊫ワックス
- ㊬傘・靴下・タオル
プラスで荷物増えるよ
- ★4 にもまとめるし単体でも

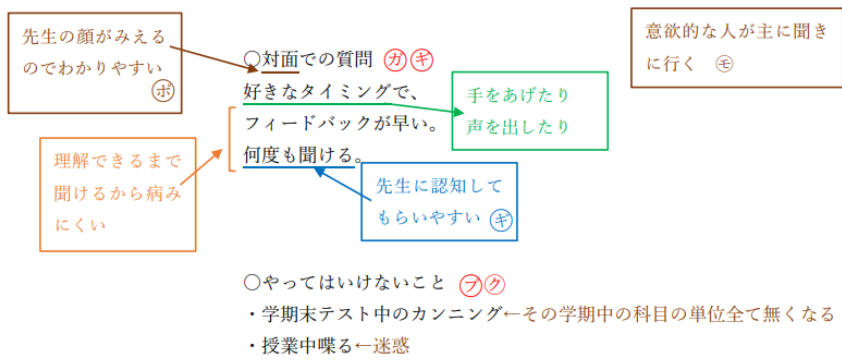


図 13 対面の関連図の 4 つ目。この図では“質問”“持ち物”を軸として関連性をメモ書きのように記している。

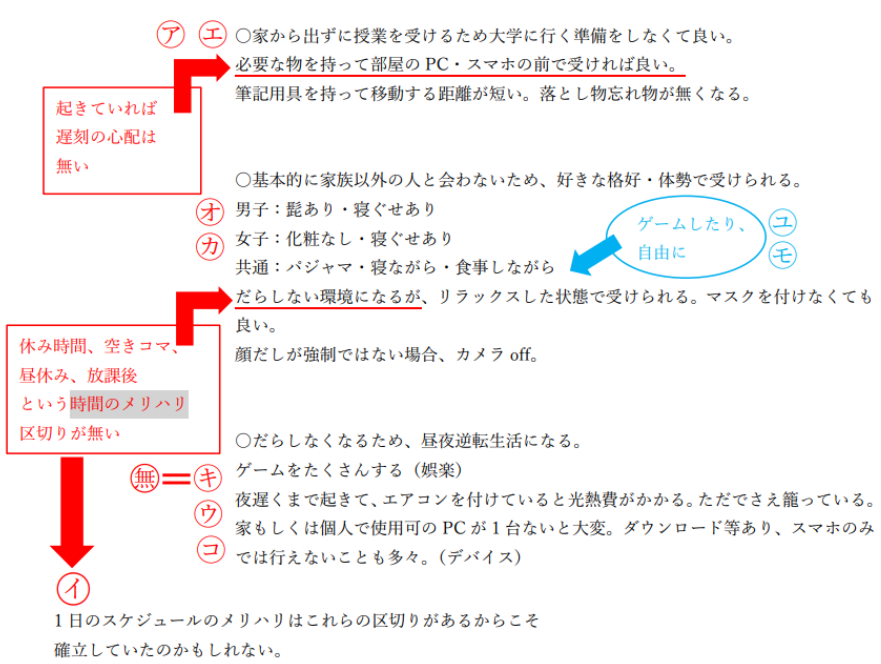


図 14 非対面の関連図の 1 つ目。この図では“だらしくなる”“準備”を軸として関連性をメモ書きのように記している。

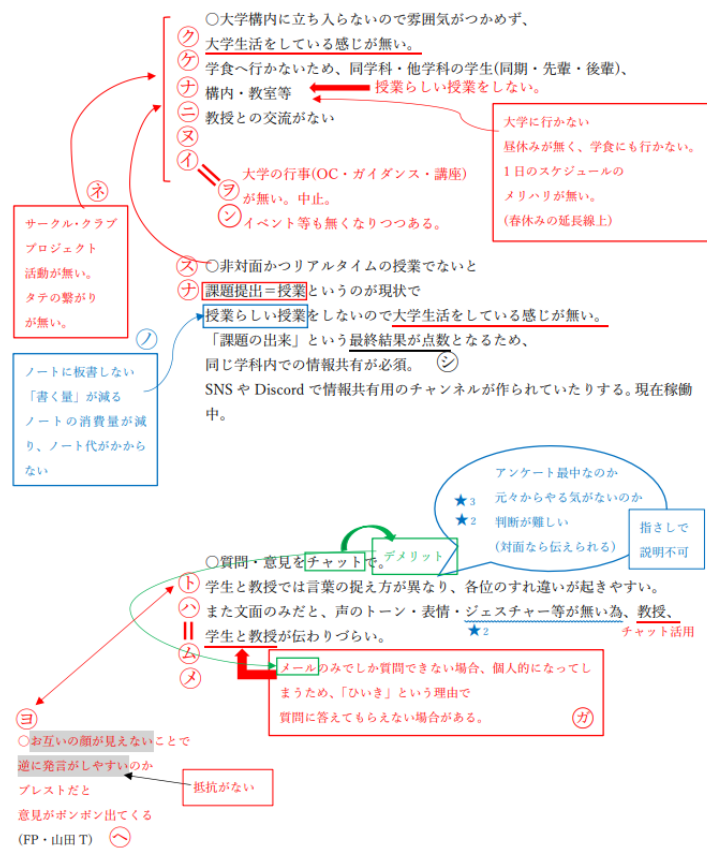
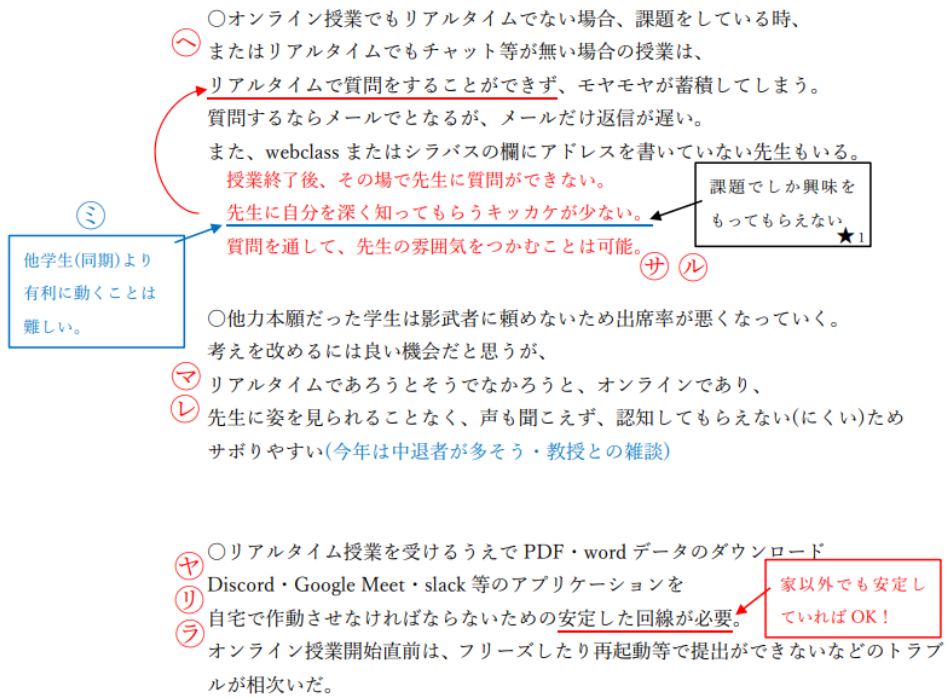


図 15 非対面の関連図の 2 つ目。この図では“文面”“授業らしさ”“雰囲気”を軸として関連性をメモ書きのように記している。



⑦と⑧はそのまま放置かも。

図 16 非対面の関連図の 3 つ目。この図では“質問”“他力本願”“通信環境”を軸として関連性をメモ書きのように記している。

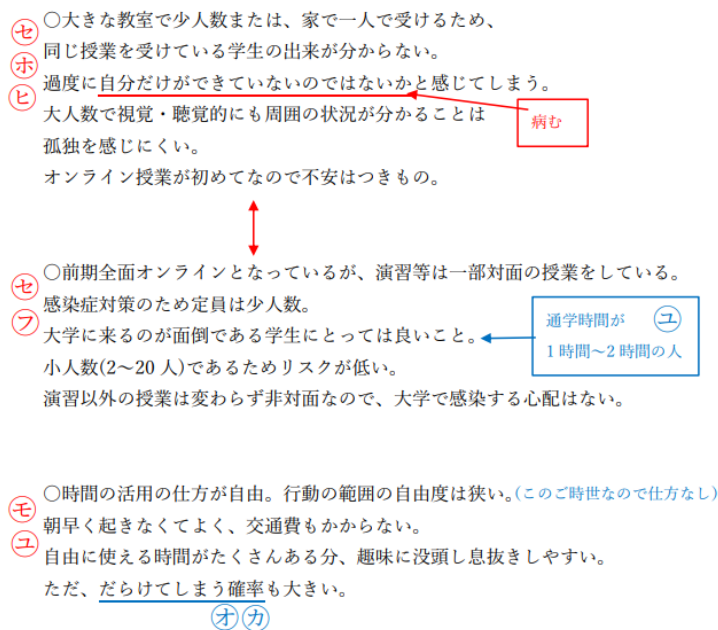


図 17 非対面の関連図の 4 つ目。この図では“時間の活用”“非対面授業”を軸として関連性をメモ書きのように記している。

対面の関連図である図 10, 図 11, 図 12, 図 13 を文章で箇条書きにまとめる。

- 人脈が広がる (学科内&学科をこえて) クラブに入るとタテ・ヨコのつながりが強くなる。(新歓等で知る)
 - 同期
 - ・クラスの中で知り合いができる
 - ・気にかけてあう仲間・共に支えあう
 - ・友達になる (情報共有ができる)
 - 先輩
 - ・勉強でも部活でもわからないことは聞ける
 - ・助言してもらえたり、相談にのってもらえる
 - 先生
 - ・覚えてもらいやすい・気にかけてもらえる
 - ・質問に答えてもらいやすい
 - ・大学外の交流もできる (ツアー・旅行)
 - 後輩
 - ・教えることで自信が付き・高められる
- 課題について
 - 試験がある場合
 - ・授業中に終わらせてくれる
 - ・成績の基準の約半分を試験にしている。
 - 試験が無い場合
 - ・ミニテストが多い
 - ・試験の代わりにレポート
- 行動の自由度が高い
 - 行動に関して特に制限は無く大学生感がある。 図 11 を見てもらおうとわかりやすい。
- ルーティーンとやる気
 - ・1日の時間の中で、授業時間+自由な時間が存在することにより、1日のルーティーンが出来ている。
 - ・また、そのおかげでやる気も生まれている。
- 準備・持ち物の多さ
 - 準備
 - ・人の目があるところ (電車・駅・外) へ行く。【お洒落・服装・身だしなみ】
 - 持ち物
 - ・共通：学生証、ハンカチ、ティッシュ、財布、教科書、ノート、筆記用具、PC、充電器、バッテリー、イヤホン、携帯電話、定期、
 - ・女性：メイク用品、生理用品、薬、救急セット、日焼け止め
 - ・男性：ワックス?
 - ・例外：鍵
 - ・雨：傘、靴下、タオル、袋 (雨の日は荷物多め)
- 15号館～本館までの移動時間のこと徒歩15分かかる。
 - メリット
 - ・ルートが学内 (防犯)
 - ・運動になる

デメリット

- ・休憩時間は10分しかない
- ・夏は暑く、冬は寒い(外・廊下。距離が短くても関係ない)

● 学食に行く

メリット

- ・自分では作れないクオリティー
- ・汁物
- ・おしゃれ
- ・選ぶ楽しみ

デメリット

- ・ご飯代がかさむ
- ・混む(昼休み)

● やってはいけないこと

- ・授業中にしゃべる
- ・テスト中にカンニング

● 対面での質問

メリット

- ・先生の表情や姿が見えるので理解しやすい
- ・何度でも聞けるので病みにくい
- ・アクションすれば好きなタイミングで
- ・フィードバックが早い
- ・先生に覚えてもらいやすい

デメリット

- ・聞く勇気が無かったり、緊張すると自ら聞きに行こうとはなりにくい。
- ・意欲的(積極的)な人が主に聞きに行く。

● 授業開始直前の待ち時間

- ・教室が開(空)いていない・開かない
- ・必修授業があるうちは荷物が多い
- ・雨の日は傘が増える
- ・夏は暑く、冬は寒い

● 遅刻する

原因

- ・寝坊・夜更かし
- ・雨や人身事故による交通の乱れ

● 先生との出会い

- ・全：#なべ・クラブ・授業・質問
- ・認知：#なべ・クラブ・質問(少人数な授業なら)

● 5限以降(6限も含む)にすること

補講・クラブ・帰宅・課題・#なべ

補講

- ・正直なところ面倒
- ・出席だけやって帰ったり、影武者を用意したり
- ・重い荷物を6限まで持っていたくない

- ・帰宅が遅くなる
- ・1 番適した時間 (ほぼ皆空いてる)

なべ

- ・月 1 でやる食事会
 - ・OB・先生・先輩・同期・後輩との交流
 - * メリット 1 : 本や教科書を貰えたり、借りれたりするので本代が浮く。
 - * メリット 2 : 夕食代が浮く。
 - * メリット 3 : 先輩に課題などの分からないところを聞ける。
 - * メリット 4 : ツアー・旅行に共に行ける
 - * メリット 5 : 先生に気に入ってもらえたり
 - ・最終時刻までいると大学出構は 21:00 なので、帰宅が遅くなる
- 授業は友達作りの場となる
 - ・チーム (小人数) でのグループワーク
 - ・プレスト・企画提案
 - ・喋りながら受けてもいい授業もある
 - 主要施設が中央キャンパス
 - ・キャリアセンター・学生課・教務課・学食
 - ・15 号館から遠い

非対面の関連図である図 14, 図 15, 図 16, 図 17 を文章で箇条書きにまとめる。

- 遅刻・忘れ物・落とし物をしない

理由

- ・家～大学まで移動をしない
- ・大学へ行く準備をしない
- ・授業を受けるためのデバイスの前だけに移動すればいい
- ・教科書・財布・通帳・メイクポーチ・ノート・筆記用具・水筒・ファイル・PC・携帯電話・鍵等の大量の荷物を長時間持ち移動しなくて良い
- ・起きてさえいれば、受けるのに1分もかからないので遅刻しない(PCを立ち上げる等の時間は除く)

- 感染予防のために大学側のする対策への学生の気持ち

良い点

- ・感染リスクが低い
- ・先生とたくさん話ができる(少人数)
- ・大学に来なくても授業を受けられる。(通学時間が2時間ほどかかる人にとっては楽であり、助かる)

悪い点

- ・同じ授業を受けている周りの学生の出来が不明
- ・過度に自分だけができていないと思い込んでしまう
- ・単位取得できるか不安
- ・孤独を感じやすく、病みやすい

- リアルタイムで返答のある質問ができない

理由

- ・オンラインだけリアルタイムじゃない授業
- ・質問をする場所がメールもしくはwebclassの掲示板

- 先生から興味を持ってもらいづらい

理由

- ・質問をすることによって、先生からおぼえてもらったりユーモアな点に興味を持ってもらうことが出来ない。(質問から、相手の個人的な気持ち、服装、好きなものは分からない)
- ・研究室に居候したり、教科書や本を借りたり等の行動もできない
- ・課題の結果でしか興味を持ってもらえない(質問は課題に対してオンリー)

- サボりやすい

理由

- ・影武者を使って単位を取れない
- ・先生の顔が見れるわけじゃない
- ・中退者が増えそう

- 安定した通信回線が必要

理由

- ・授業・課題等でデータ量の多い情報のやり取りを行う
- ・Discord、Google Meet、webclass など、リアルタイムやオンラインでアプリを動かさなければなら

ない

- ・出席確認・課題提出。

- 生活のメリハリが無くなる

理由

・ラフな、好きな格好で受けられる

男：寝ぐせ、髭

女：化粧、寝ぐせ

共通：パジャマ、下着

・好きな体勢で受けられる

寝転がる、食事しながら、音楽聞きながら、歌いながら、ゲームしながら

・マスクを付けなくて良い

・だらける(昼夜逆転)

・休み時間、通学時間、空きコマ、放課後、起床就寝時間等の区切り(概念)が無い

・家庭内でしか人に会わない

・光熱費が増える

- 1家に少なくとも1台PCが必要

理由

・授業、課題等で大きいデータやアプリが必要。ダウンロードして使用する。携帯電話のみでは厳しい(PDF、Word、Excel、Google Meet、Zoom、Access)

- 授業の要点を繰り返し確認

理由

・音声、写真、映像等で授業を残す。

・「コンピュータのしくみ」は授業後にサポートトークをやっている

・slackは過去のメッセージを見返せる

- 調べ放題

理由

・授業・テストを受ける部屋に自分以外の誰もいないので(大学関係者がいない)

- 人とのつながりを持ちにくい(タテヨコつながり)

理由

・同学科・他学科の学生(同期、先輩、後輩)に会わない

・他学科の教授に会わない

・大学のイベントがない(OC、講座、ガイダンス、式典)

・サークル・クラブ・プロジェクト活動が無い

- 授業らしい授業をしない

理由

・課題提出、課題の出来 = 授業

・板書をしない

・黒板を見ない

・量が多い課題

- 質問・意見・説明をチャットで行うことについて

良い点

・発言しやすい・プレストには良き

・抵抗がない

悪い点

・言葉の捉え方の違いのせいで発生するすれ違い、勘違い

・声の大きさ、トーン、表情、ジェスチャーが無い為伝わりづらい

- ・作業中なのか否かの判断ができない
- ・指さして説明、指示を求めることが困難
- 質問をメールですることについて

理由

- ・個人的なメールでの問い合わせなので、個人に答えることは“鼻真”になるという理由で答えてもらえないことがある。

箇条書きの項目だけ取り出したものを下記の表 2 に示す。

表 2 関連図の箇条書きの項目だけを見やすく抜き出し記す。

対面（通常）	非対面（現状）
・人脈が広がる	・遅刻、忘れ物、落とし物をしない
・課題について	・感染予防のための大学側の対策に対する学生の気持ち
・行動の自由度が高い	・返答がリアルタイムじゃない
・ルーティーンとやる気の確立	・先生から興味を持ってもらいづらい
・準備、持ち物の多さ	・さぼりやすい
・5 限以降にすること	・安定した通信環境が必要
・授業は友達づくりの場となる	・生活リズムのメリハリがなくなる
・主要施設が中央キャンパス寄り	・1PC/1 家
・15 号館 本館までの移動時間	・授業の要点を繰り返し確認
・学食に行く	・調べ放題
・対面での質問	・タテヨコの繋がりが持ちづらい
・授業開始前の待ち時間	・授業らしくない
・遅刻する	・質問、意見、説明をチャットで行うことについて
・先生との出会い	・メールで質問することについて

ラベル化の際と数の変化はさほどないが、内容はより分かりやすいものへ変化した。ラベル化ではキーワードだけで意味を持たない文であったが、文章化では意味を持つ文へ変化した。

3.6 文章化から仮説へ

3.6.1 対面と非対面の比較

表 2 に記す項目をそれぞれ比較し「～な項目において、対面では～、非対面では～」という形にまとめた。一つの項目について良い点も悪い点も比較し少々長めな文を作り、13 個の項目にまとめることができた。

授業

両 課題について

対面 ルーティーンとやる気の確立

対面 やってはいけないこと

両 質問

非対面 授業の見返し

非対面 調べ放題

大学生活

対面 人脈が広がる

対面 準備・持ち物の多さ

対面 15 号館～本館までの移動時間

対面 授業開始直前の待ち時間

対面 遅刻する

対面 先生との出会い

環境

対面 行動の自由度が高い

非対面 安定した通信環境が必要

上記の 13 個の中で、“非対面” “対面” “両方” の要素として属するものを分け仮説を導出した。また、今後アンケートを取りやすいように“授業” “大学生活” “環境” の 3 つにも分けた。“授業” は授業中や授業に関連すること、“大学生活” は大学での授業時間以外の生活に関して、“環境” は家での通信環境や大学外や放課後等の時間の行動について。

4 仮説

非対面の仮説に関して、大学生感・大学生生活感が無いというのは前提とする。

対面（通常）

- ルーティーンが出来上がる
- やる気が生まれる
- 人脈が広がる（広がりやすい）
- 持ち物・準備物が多い
- 遅刻する
- 忘れ物をする
- 自由に行動できる
- 待ち時間、移動時間が発生する
- 質問しにくい

非対面（現状）

- 調べ放題
- 安定した通信環境が必要
- 課題が多い
- 質問しやすい
- 持ち物・準備物が少ない
- 人脈が広がりにくい
- 忘れ物しない
- だらけやすい
- 不安が多い

5 検証

検証方法

Google フォームを用いたアンケート。回答が返ってくるたびに統計のグラフを自動で作成するため使用した。

検証期間

アンケート期間は10月5日から10月19日とする。アンケート期間をこの時期の定めた理由は、後期が始まってまだ1週間というタイミングであり、今年度前期の記憶が残り、前年度までと比較してもらいやすいと考えた為。前年との比較ができなければアンケートを取る意味は無くなってしまう。アンケート終了後、事前に導出しておいた仮説とアンケート結果を照らし合わせ、非対面の仮説の項目に沿って考察していく。

検証対象

本学科の2年生・3年生(18H・19H)を対象とし、任意参加で行った。1年生は非対面授業との比較ができず、4年生は基本卒研しか履修していないため、検証対象には含んでいない。

6 仮説に沿った結果と考察

18Hの学生34人、19Hの学生26人、の回答をもとに仮説と照らし合わせ、考察する。非対面に関する仮説に沿って記述する。非対面を選んだ理由は、現在も非対面のため統計結果が理解しやすいと感じたからである。

6.1 人脈が広がりにくい

“クラスメイトと会ったことがあるか”を図18に、“同じ学科の先生と会ったことがあるか”を図19に、“同じ学科の後輩と話したことがあるか”を図20にそれぞれ示す。

図18と図19と図20をそれぞれ見る。20Hの学生がほぼ大学に來られていないということなので、19Hの学生が後輩に会うことがほとんど無いのは仕方がない。18Hの学生は19Hの学生を見たり、会ったりという事はあったそうだ。ただ、19Hはクラスメイト・先生に会った割合も低め。両方の学生に共通して言えることは、後輩に会う、目にする機会が減っているということである。授業やグループワーク等を通して新たなクラスメイトとの輪が広がることは十分あり得るので、後輩や先生に会えないということは人脈が広がるという点において影響がある。

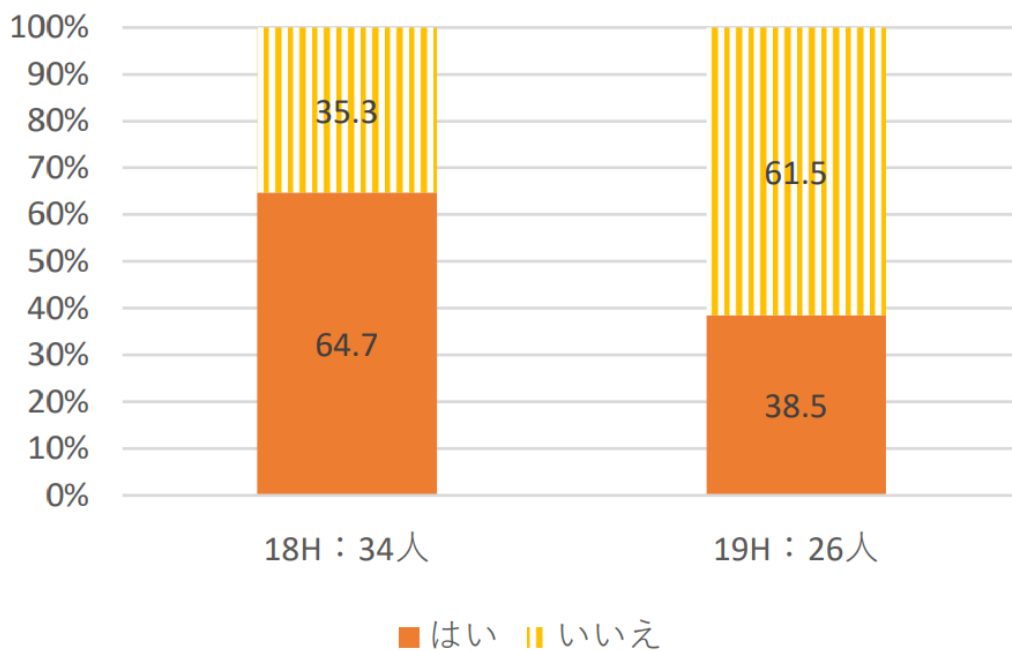


図18 クラスメイト会ったかどうかの図。18Hの学生の内“はい”は22人、“いいえ”は12人。19Hの学生の内“はい”は10人、“いいえ”は16人。塗りつぶしは“はい”、縦線は“いいえ”をそれぞれ示す。グラフ内の2桁または3桁の小数点を含む値は、そのデータの割合(%)を表したものである。

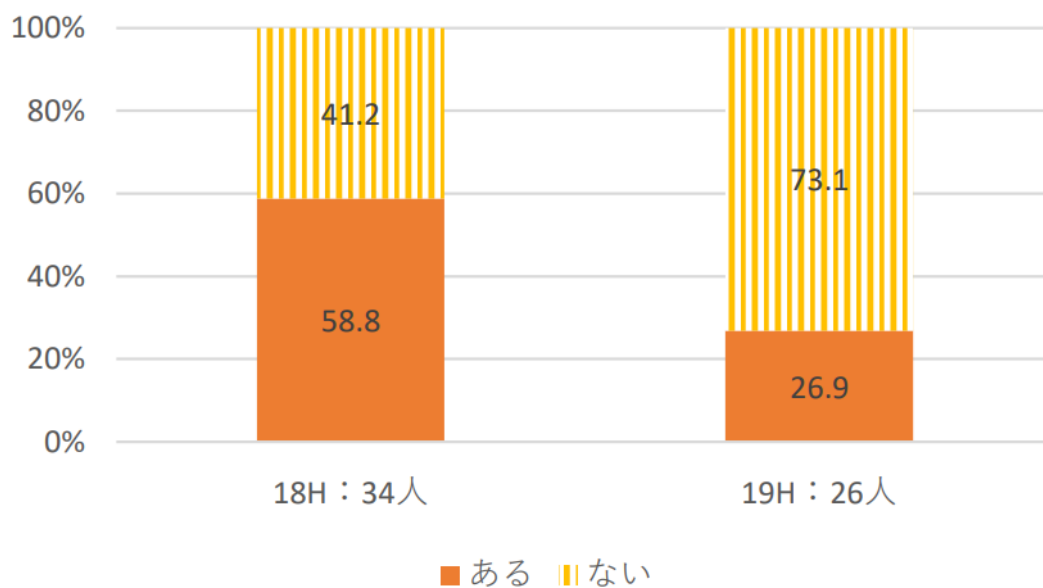


図 19 同じ学科の先生に会ったことがあるか。実際に対面で会ったという事なので見たとはまた違う意味合いとなる。18Hの学生の内“ある”は20人、“ない”は14人と、19Hの学生の内“ある”は7人、“ない”は19人。塗りつぶしは“ある”、縦線“ない”をそれぞれ示す。グラフ内の2桁または3桁の小数点を含む値は、そのデータの割合(%)を表したものである。

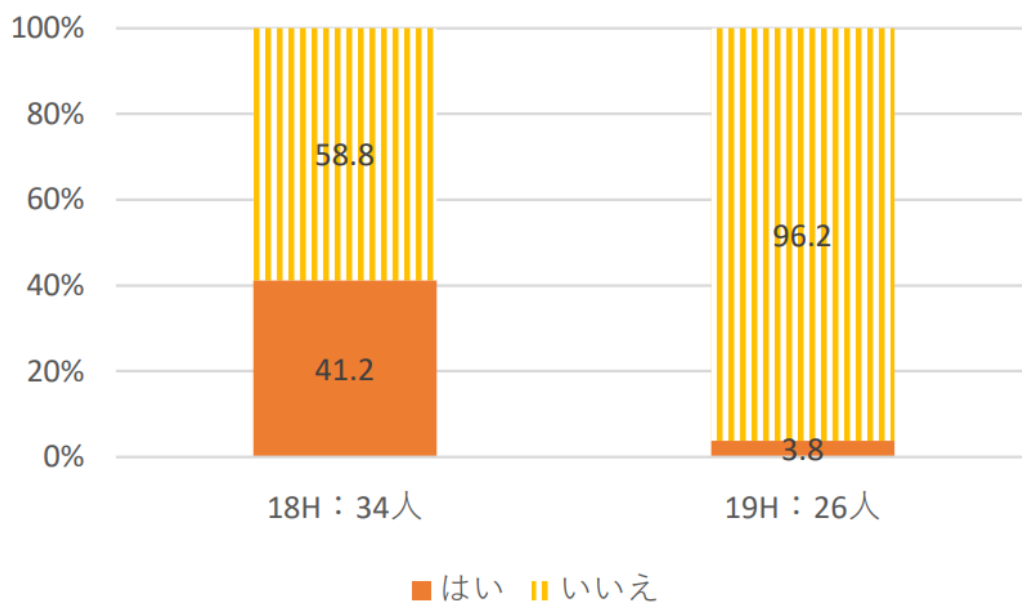


図 20 同じ学科の後輩と話したことがあるか。18Hの学生の内“はい”は7人、“いいえ”は27人。19Hの学生の内“はい”は1人、“いいえ”は25人と回答。塗りつぶしは“はい”、縦線は“いいえ”をそれぞれ示す。グラフ内の2桁または3桁の小数点を含む値は、そのデータの割合(%)を表したものである。

6.2 やる気が下がる

授業・課題に対するやる気が低下したという回答はどちらも半数以上だが、18Hの学生は19Hの学生に比べると意外にも“上がった”と回答した学生も多く半分ほどの割合。図21と図22を見比べると、18Hの学生も19Hの学生も課題のやる気は下がったと回答した学生が多い。18Hの学生は課題に対してのやる気は低下した割合が多く、19Hの学生は授業に対してのやる気が低下した割合が多い。授業に対するやる気の変化を図21に、課題に対するやる気の変化を図22にそれぞれ示す。また、授業のやる気が下がった要因は図23に、課題のやる気が下がった要因は図24にそれぞれ示す。

- 授業に対するやる気の傾向。

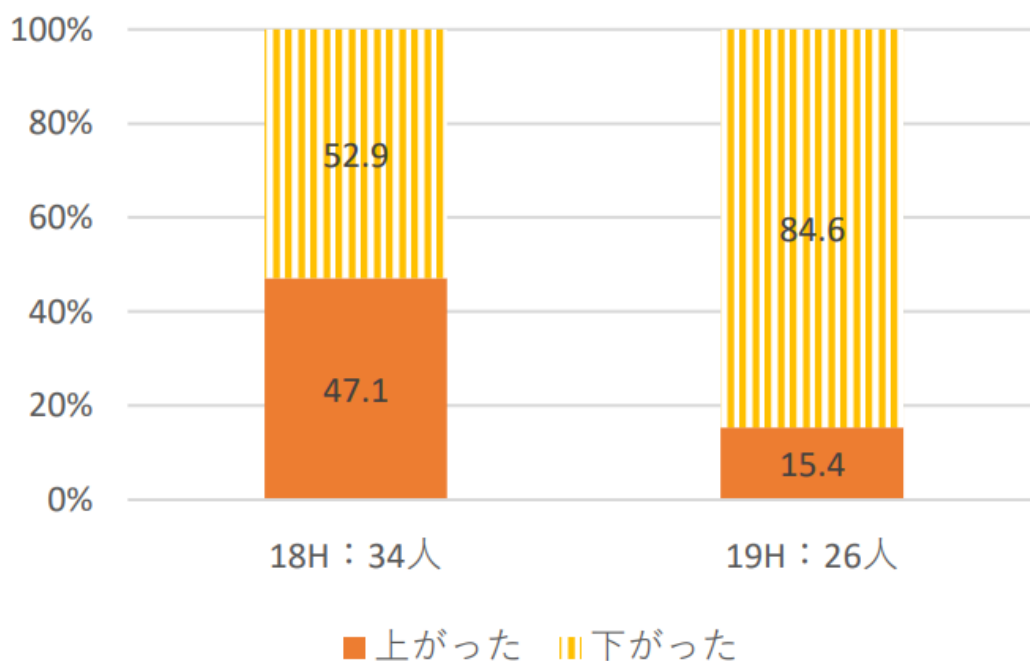


図21 授業に対するやる気の傾向について。18H・19Hの学生ともにやる気が低下していると回答。18Hの学生の内“上がった”は16人、“下がった”は18人。19Hの学生の内“上がった”は4人、“下がった”は22人。塗りつぶしは“上がった”、縦線は“下がった”をそれぞれ示す。グラフ内の2桁または3桁の小数点を含む値は、そのデータの割合(%)を表したものである。

- 課題に対するやる気の傾向。

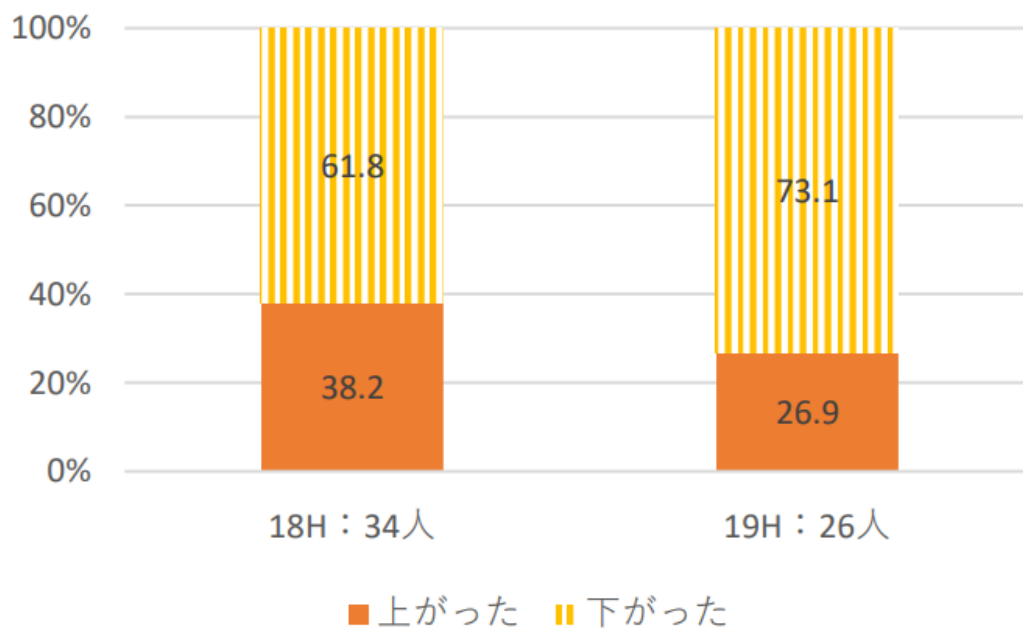


図 22 課題に対するやる気の傾向について。18H・19H の学生ともに半数以上がやる気が低下している。18H の学生の内“上がった”は 13 人、“下がった”は 21 人。19H の学生の内“上がった”は 7 人、“下がった”は 19 人。塗りつぶしは“上がった”、縦線は“下がった”をそれぞれ示す。グラフ内の 2 桁または 3 桁の小数点を含む値は、そのデータの割合 (%) を表したものである。

授業と課題に対するやる気の減少要因を図 23 と図 24 にそれぞれ示す。前年度までと比べ授業に対するやる気は減少傾向となっている。特に 19H の学生は下がったようだ。大学生生活をまだ 1 年しか経験していないので大変だったと推測する。両方の学生ともにやる気の下がった要因は、授業と課題のどちらもその内容との回答。確かに非対面授業になり、授業内容は大きく変化した。それに伴い課題内容も大きく変化した。前年までとは違う点も多かったと推測する。

図中の“友達”に関しては、友達がいない、友達に聞けない等の意味を含む。そのほかの“先生”“充実した環境”“図書館”もこれらが無かったもしくは行けなかった等の意味を含む。

- 授業に対するやる気低下の要因。

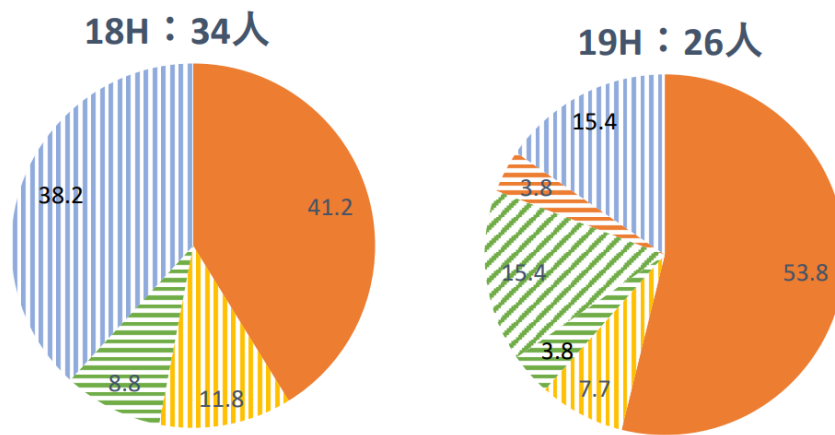


図 23 授業に対してのやる気減少の要因について。18H・19H の学生ともに”授業内容”がやる気減少の要因と捉えている。18H の学生の内“授業内容”は 14 人、“友達”は 4 人、“充実した環境”は 3 人、“上がったと感じる”は 13 人。19H の学生の内“授業内容”は 14 人、“友達”は 2 人、“先生”は 1 人、“充実した環境”は 4 人、“図書館”は 1 人、“上がったと感じる”は 4 人。円グラフの右上から右回りに、18H の方は塗りつぶしは“授業内容”、縦線は“友達”、横線は“先生”、縦線は“上がった”をそれぞれ示す。円グラフの右上から右回りに、19H の方は塗りつぶしは“授業内容”、縦線は“友達”、横線は“先生”、斜線は“充実した環境”、横線は“図書館”、縦線は“上がった”をそれぞれ示す。人数が 0 だった項目は排除済み。グラフ内の 2 桁または 3 桁の小数点を含む値は、そのデータの割合 (%) を表したものである。

- 課題に対するやる気低下の要因。

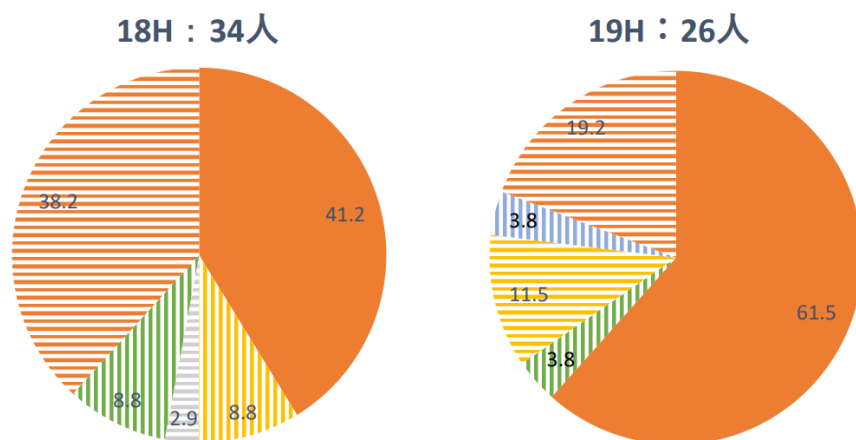


図 24 課題に対してのやる気減少の要因について。18H・19H の学生ともに”課題内容”がやる気減少の要因と捉えている。18H の学生の内 “課題内容”は 14 人、“友達”は 3 人、“休み時間”は 1 人、“充実した環境”は 3 人、“上がったと感じる”は 13 人。19H の学生の内 “課題内容”は 16 人、“先生”は 1 人、“充実した環境”は 3 人、“図書館”は 1 人、“上がったと感じる”は 5 人。円グラフの右上から右回りに、18H の方は塗りつぶしは “課題内容”、縦線は “友達”、横線は “休み時間” 縦線は “充実した環境”、横線は “上がった”をそれぞれ示す。円グラフの右上から右回りに、19H のほうは塗りつぶしは “課題内容”、縦線は “先生”、横線は “充実した環境”、縦線は “図書館”、横線は “上がった”をそれぞれ示す。人数が 0 の項目は排除済み。グラフ内の 2 桁または 3 桁の小数点を含む値は、そのデータの割合 (%) を表したものである。

6.3 準備物・持ち物が少ない、忘れ物をしない

18Hの今年度の準備物を図25に、前年度までの準備物を図26に、19Hの今年度の準備物を図27に、前年度までの準備物を図28にそれぞれ示す。持ち物・準備物の選択項目一覧は、自身やクラスメイトが3年間通学する中で必要と感じたものである。

今年度と前年度までの準備物の量が明らかに減っている。特に各図の筆記用具から下の項目は前年までと比べると差は明らかである。PCや教科書など、授業を受けるうえで欠かせないものはどちらの年度も多く選択されている。図25と図26を見る。18Hのほうが19Hの学生よりも選択している項目が多いのは、19Hの学生より演習等の授業の関係で大学に通っていたからだと推測される。図27と図28を見る。こちらのグラフでは選択されない項目は無かった。両方の学生ともに“鍵”“傘”“定期”と、外出のための準備物が選択されている。これらの準備物は非対面授業では少なくとも準備しなくていいものだろう。

前年度までで“PC”の選択数が低かったのは、荷物がかさ張るという理由以外にも大学に環境があるためPCを持っていかなくても良いのだと推測した。自身も前年までの3年間PCを毎日持って行っていたかということ、そうではない。やはり大学に環境があるとわざわざ自身のPCを持っていくとは思わない。課題をするにも演習室がある。実際のところ少なくとも1ヶ月に2回ほど持って行っていたような感覚。今年度前期は準備物・持ち物が減るという結果となった。

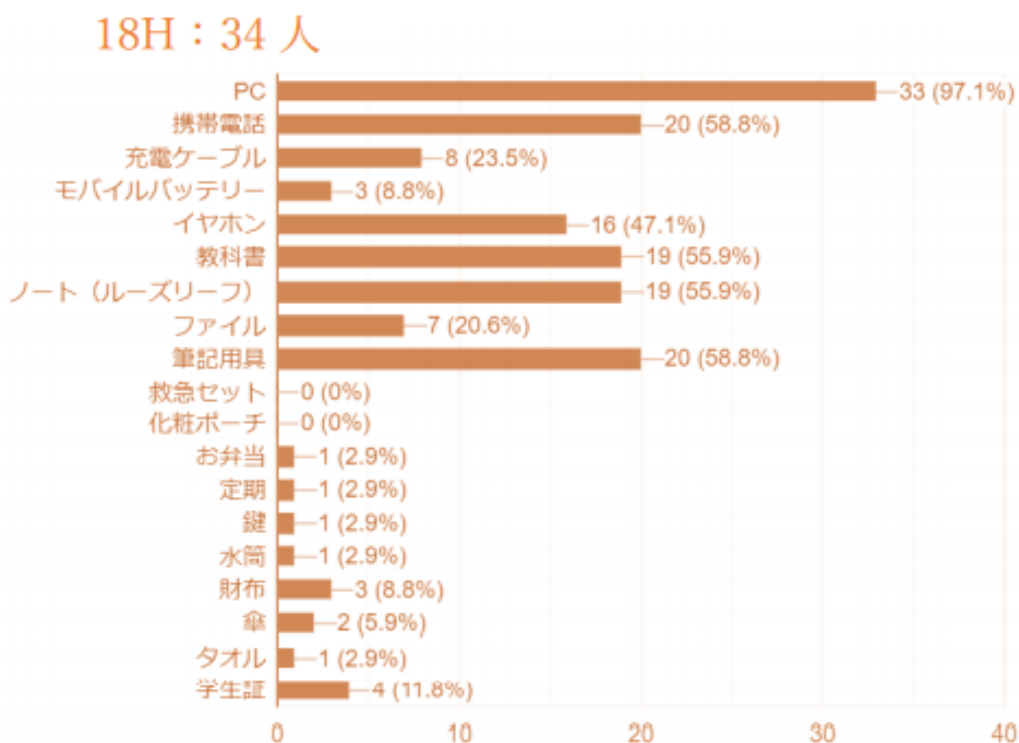


図25 18Hの今年度前期の準備物のグラフ。縦軸は準備物、横軸は選択した学生の人数。両学生ともに“PC”の選択が一番多いことが分かる。この項目では複数回答にした為合計値と人数に違いが生じる。選択数が多い順位を5つ取り出す。人数が多い順に列挙する。“PC”“携帯電話”“筆記用具”“教科書”“ノート(ルーズリーフ)”となる。

19H : 26 人

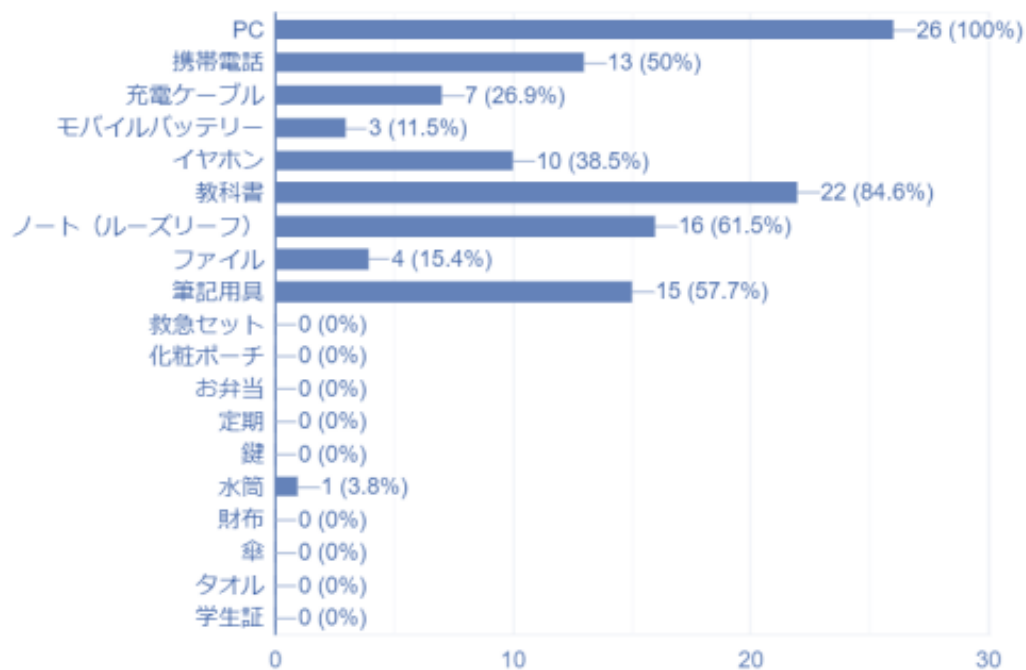


図 26 19H の今年度前期の準備物のグラフ。縦軸は準備物、横軸は選択した学生の人数。両学生ともに“PC”の選択が一番多いことが分かる。この項目では複数回答にした為合計値と人数に違いが生じる。選択数が多い順位を 5 つ取り出す。人数が多い順に列挙する。“PC” “教科書” “ノート (ルーズリーフ)” “筆記用具” “携帯電話”となる。

18H : 34 人

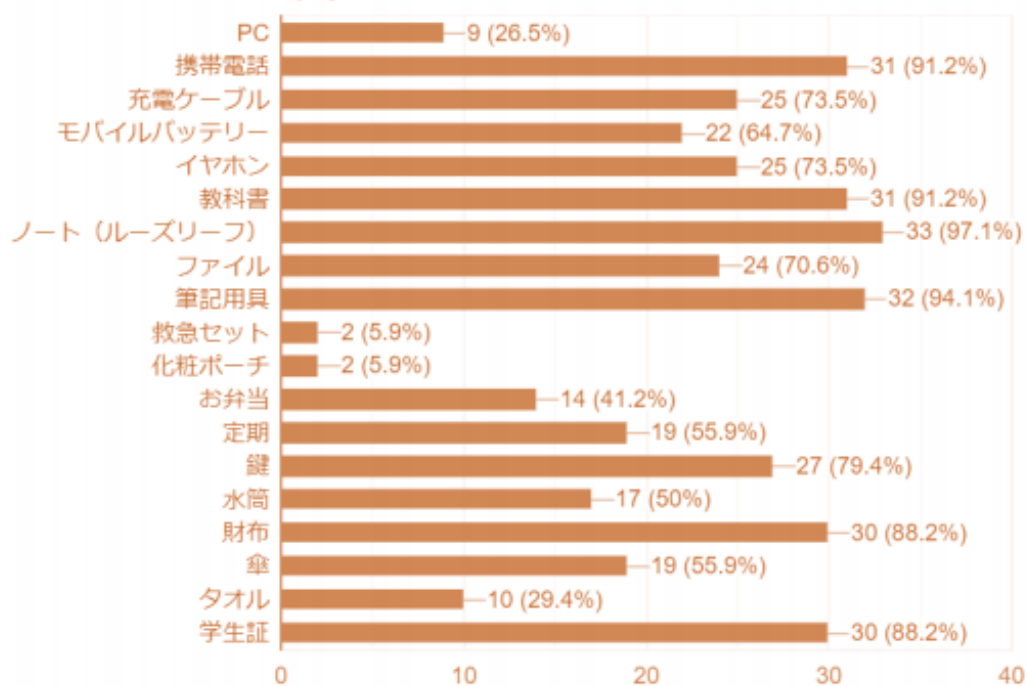


図 27 18H の前年度までの準備物のグラフ。縦軸は準備物、横軸は選択した学生の人数。“PC”を選択した学生が減少し、“携帯電話”“財布”“学生証”を選択した学生が増加した。この項目では、複数回答にした為合計値と人数に違いが生じる。選択数が多い順位を 5 つ取り出す (タイになった場合は含む)。人数が多い順に列挙する。“ノート (ルーズリーフ)”“筆記用具”携帯電話”“教科書”“財布”“学生証”となる。

19H : 26 人

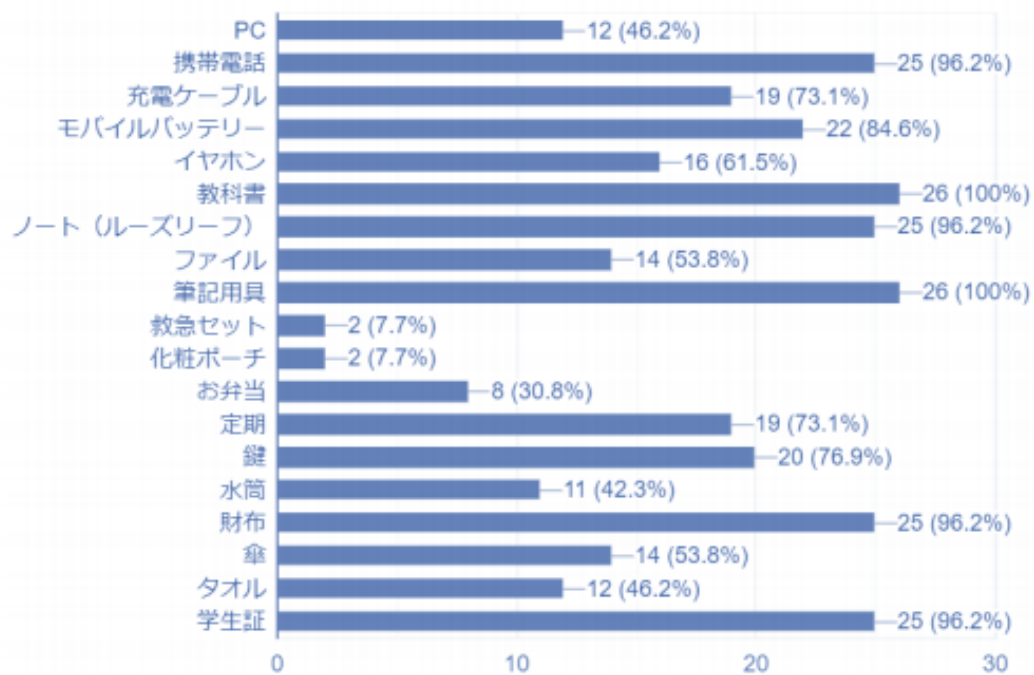


図 28 19H の前年度までの準備物のグラフ。縦軸は準備物、横軸は選択した学生の人数。“PC”を選択した学生が減少し、“携帯電話”“財布”“学生証”を選択した学生が増加。この項目では複数回答にした為合計値と人数に違いが生じる。選択数が多い順位を 5 つ取り出す (タイになった場合は含む)。人数が多い順に列挙する。“筆記用具”“教科書”“携帯電話”“ノート (ルーズリーフ)”“財布”“学生証”となる。

6.4 遅刻をしない

遅刻の割合は今年前期で全体の6割、前年度までで全体の8割。これらの数値は18Hと19Hの学生両方に言える事である。遅刻の理由に関してだが、前年度までだと雨や交通の乱れなど自己管理では遅刻を防ぐのが困難な事例の割合が多かった。しかし、今年前期だと基本授業を受けるために家から出ることはないので、遅刻の理由は自己管理となってしまう。その中で多かったのが“忘れていた”“夜更かし”の2つだった。次に日付の勘違いが続いた。

非対面授業だと、授業を受けるための準備が少ないかつ短いので、余裕を持って授業の準備をして受けるものだと思っていた。その結果遅刻の割合は減ると予想していた。しかし、家にいる、基本引きこもっている生活をしていると、生活リズムは乱れてきやすいものなのか、遅刻の割合が前年までとさほど変わらなかった。今年前期の遅刻理由はほとんど自己管理の甘さということになってしまう。だがそれ以外にも、通信環境の問題や集中アクセスの結果 webclass や授業で用いるツールが授業の途中で落ちてしまったり、授業開始直後にフリーズしてしまったりで、欠席や遅刻になった例もあったそうだ。そういう理由も含めると“自己管理の甘さ”というのを遅刻の原因として決めつけてしまうのは違う気がする。ただ、多くの割合を占める原因は“自己管理の甘さ”ということである。一日のメリハリが付けにくくなっていた前期は、メリハリを保つのが難しかったと推測する。もちろん遅刻をしていないと回答した学生もいた。

6.5 だらけやすい

下記二つの項目をみると、18Hの学生は日常生活に乱れがあったと推測される。昼夜逆転については図29に、授業後何をしていたかについては図30にそれぞれ示す。

- 昼夜逆転してしまっていましたか？

意外と19Hの学生の昼夜逆転率が低めであった。18Hの学生がある程度授業を受ける要領をつかめる時期だと推測した場合、19Hの学生は授業内容にも授業形式にもついていくのがやっとなり必死になっていたと考えられる。しかし、18Hの学生は授業の進め方はある程度理解し形式にも順応出来ていたとする。すると自ずと余裕が生まれる。以下の二つの図を見てそう考察した。

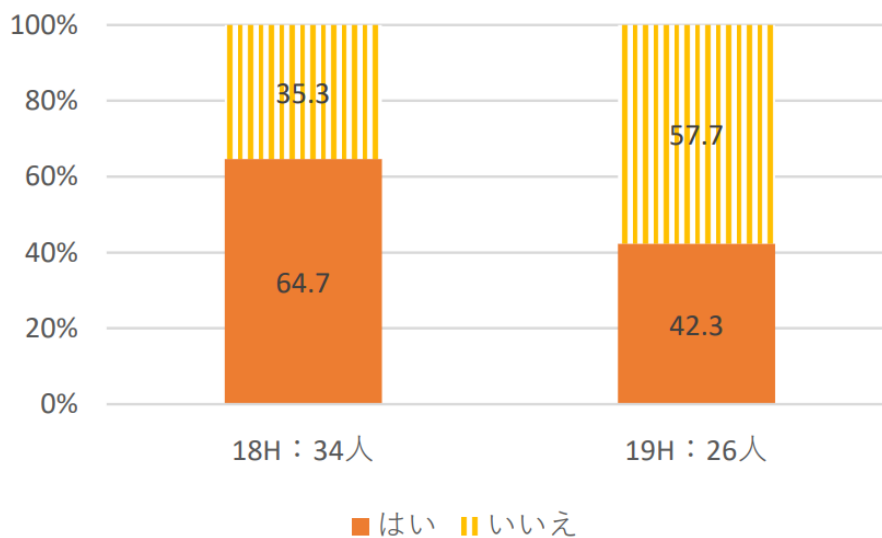


図29 今年前期中昼夜逆転の生活をしてきたか。18Hの学生の内“はい”は22人、“いいえ”は12人。19Hの学生の内“はい”は11人、“いいえ”は15人。塗りつぶしは“はい”、縦線は“いいえ”をそれぞれ示す。グラフ内の2桁または3桁の小数点を含む値は、そのデータの割合(%)を表したものである。

- 授業を受けた後は何をしていたことが多かったですか？

19Hの学生は課題をして、18Hの学生はゲームをしていた割合が多いという結果となった。昼夜逆転の際にも書いたように18Hの学生が余裕をもっていたとすれば、課題は後回しにし、ゲーム等の娯楽に手が伸びてしまうのではないだろうかと考えた。19Hの学生はゲームよりも課題をする学生が多かった。

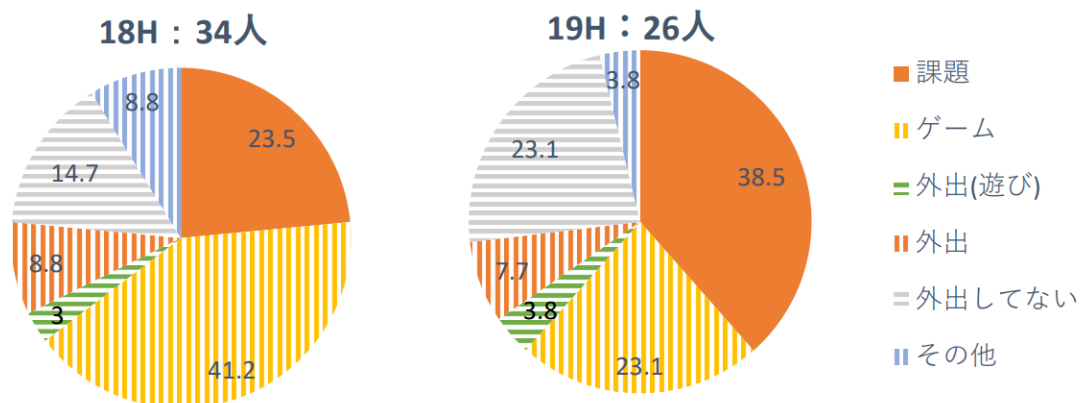


図 30 授業後何をしている事が多かったか。18Hのゲームと19Hの課題の割合が似た数値となった。18Hの学生の内“課題”は8人、“ゲーム”は14人、“外出(遊び)”は1人、“外出”は3人、“外出していない”は5人、“その他”は3人。19Hの学生の内“課題”は10人、“ゲーム”は6人、“外出(遊び)”は1人、“外出”は2人、“外出していない”は6人、“その他”は1人。円グラフの右上から右回りに塗りつぶしは“課題”、縦線は“ゲーム”、横線は“外出(遊び)”、縦線は“外出”、横線は“外出していない”、縦線は“その他”をそれぞれ示す。グラフ内の2桁または3桁の小数点を含む値は、そのデータの割合(%)を表したものである。

- 生活のメリハリを作っていたのはどの時間帯ですか？

18H も 19H も “通学時間” との回答。1 限に授業を取ってれば、朝早く起床する。通学時間内に自然と頭をリセットさせ授業に臨んでいた学生もいただろう。非対面授業では全体の 7 割の学生が、授業時間ギリギリに起床し授業を受けていたと回答。意外にも通学時間が生活のメリハリを作り出していたようだ。詳細を図 31 に示す。

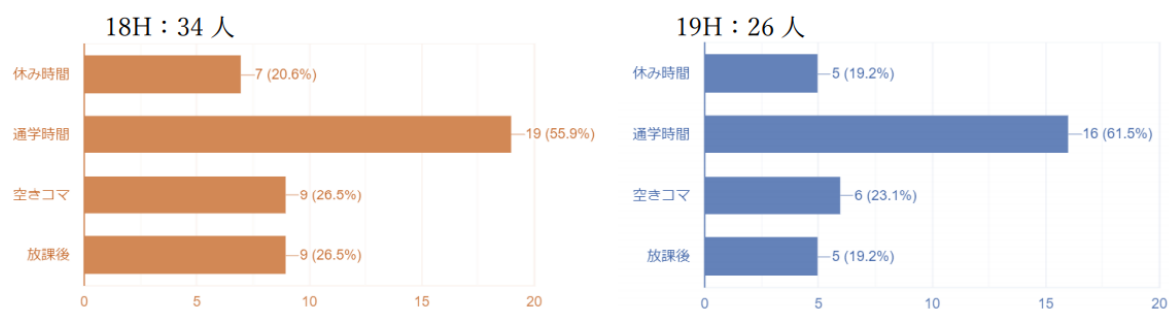


図 31 生活のメリハリを作っていたのはどの時間帯か。両方の学生ともに “通学時間” と回答。

6.6 課題が多い

図 32 と図 33 を見る。19H の学生は特に“量”に悩まされていたようだ。18H の学生も回答数の半分ほどが“多い”と回答。18H の学生は“量”よりも“提出期限”に対して不安があった。

- 課題を進めるうえで不安だったことは？

差は僅かであるものの、19H の学生が“量”、18H の学生が“提出期限”と答えている。詳細を図 32 に示す。

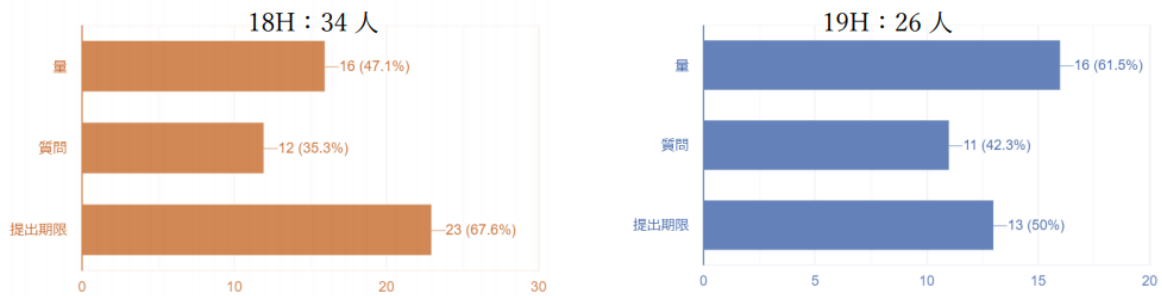


図 32 課題を進めるうえで不安だったこと。18H の学生は“提出期限”が、19H の学生は“量”の選択数が一番だった。

- 課題の量はどのように感じましたか？

18H の学生が“変わらない”と答えた割合が“多い”と答えた割合とさほど変わらなかったのは色々な非対面授業を受けてこの状況に慣れたからではないだろうかと推測した。少ないと感じた学生が 18H にはいたものの、基本的に多くなったという回答が多かった。統計結果は図 33 に示す。19H は“少ない”と回答した学生はいなかった。

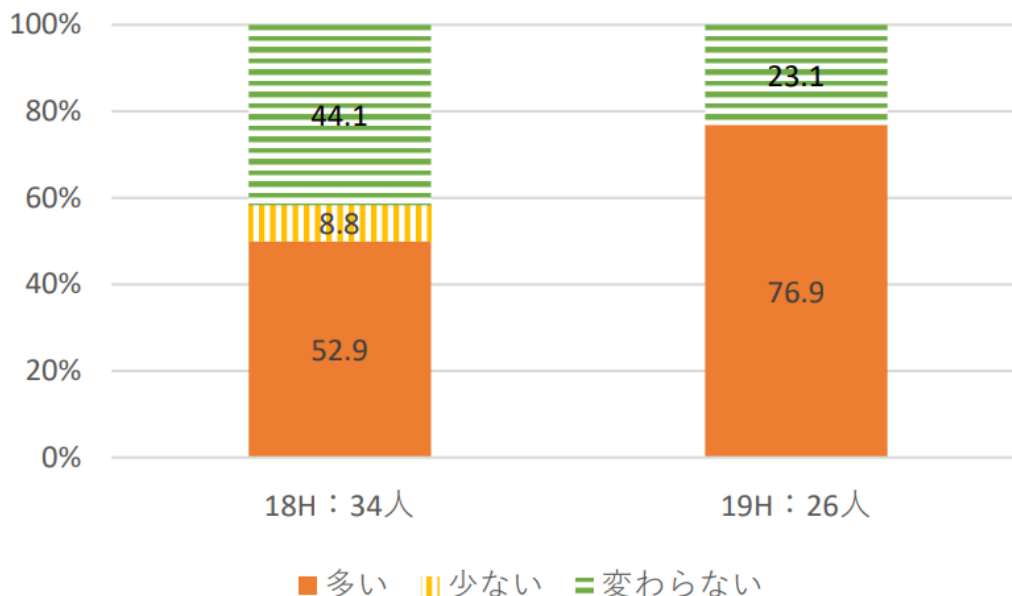


図 33 課題の量について。18H の学生の内“多い”は 18 人、“少ない”は 1 人、“変わらない”は 15 人。19H の学生の内“多い”は 20 人、“変わらない”は 6 人。塗りつぶしは“多い”、縦線は“少ない”、横線は“変わらない”をそれぞれ示す。グラフ内の 2 桁または 3 桁の小数点を含む値は、そのデータの割合 (%) を表したものである。

同期から話を伺ったとき、課題の量が多いと聞いていたが、18Hの学生は“量”よりも“提出期限”が不安であると感じていた。18Hの学生は基本ゆったりと課題を進めていた学生が多かったのではないだろうか。

6.7 大学生感・大學生生活感が無い

- “授業らしい”雰囲気の要因はどれだろう？

18H・19Hの学生ともに、11個の回答中“先生の姿が見える”“周囲に学生がいる”を要因として多く選んでいる。非対面授業ではリアルタイムかつ先生がモニターやカメラの前で話さない限り姿を確認することは出来ない。また、基本的に非対面授業を受ける環境は家の中ということである。同じ境遇の同士が周囲にいるわけでもない。その他の回答には、“周りが静かである”“授業以外の学びがある”といった回答が多かった。詳細を図34に示す。

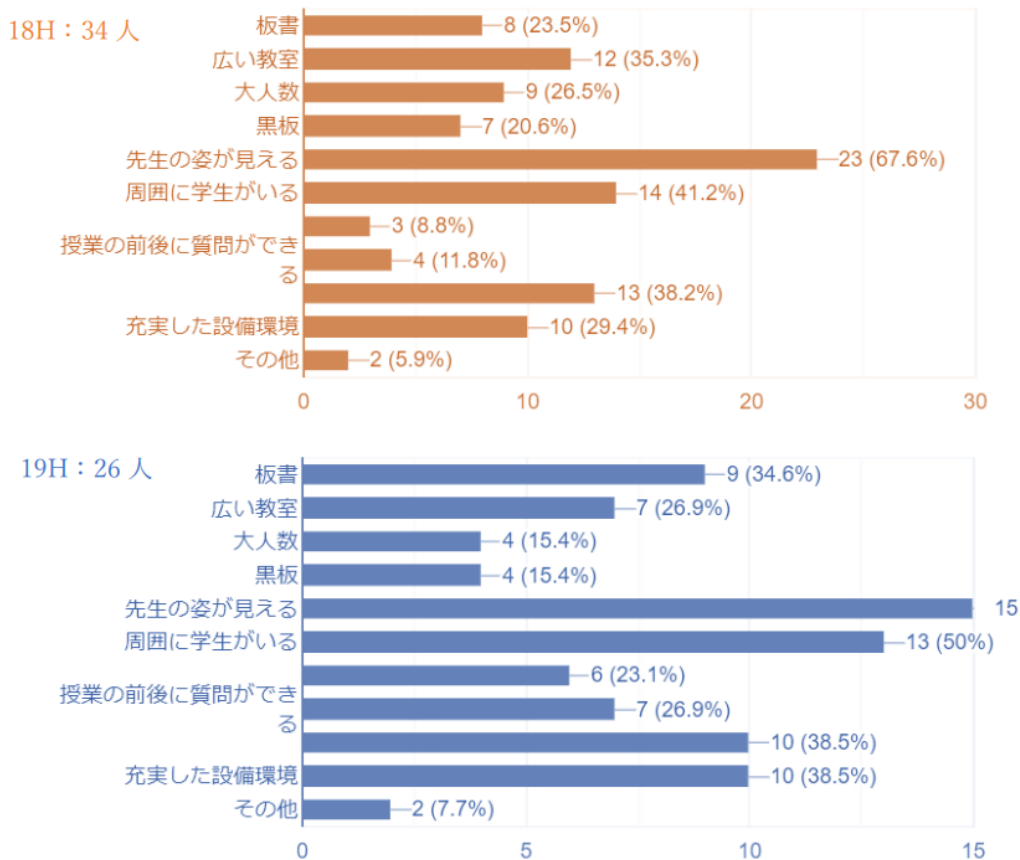


図34 “授業らしい要因”とは。上部が18H、下部が19H。両方の学生ともに、“先生の姿が見える”事を要因として多く選択されている。“周囲に学生がいる”の下は“ざわざわした話し声が聞こえる”が入る。また、“授業後に質問ができる”の下には“友達と相談しながら授業を受けられる”が入る。この他に18Hの学生は“周囲に学生がいる”“友達と相談しながら授業を受けられる”“広い教室”を選択。19Hの学生は“周囲に学生がいる”“充実した設備”“友達と相談しながら授業を受けられる”を選択。

- 大学生活を送っている感覚はあったか？

“なかった”の回答が18H・19Hの学生それぞれ全体の約4分の3を占める。“授業を受けている感覚があったか”や“大学生だなんて感覚はあったか”の質問にも同じような傾向が見られた。詳細を図35に示す。

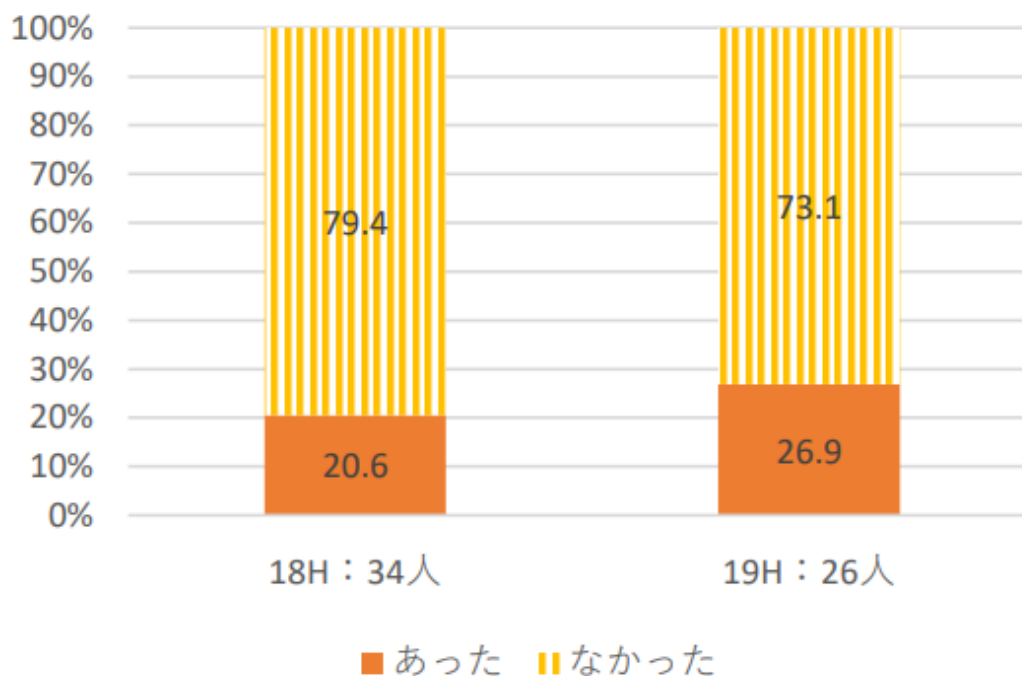


図 35 大学生活(学生生活)を送っている感覚はあったか。両方の学生ともに全体の約4分の3の割合で“なかった”と。18Hの学生の内“あった”は7人、“なかった”は27人。19Hの学生の内“あった”は7人、“なかった”は19人。塗りつぶしは“あった”、縦線は“なかった”をそれぞれ示す。グラフ内の2桁または3桁の小数点を含む値は、そのデータの割合(%)を表したものである。

6.8 不安が多い

- 自分だけ出来ていないように陥ったことはあったか？

19Hの学生は18Hの学生より陥ることがあったと回答。自分の不得意な分野であったり、極端に難しかったりすると陥りやすいと思うのだが、今年はその要因に加え、周りに手短に聞ける先生やクラスメイトがいない環境だったので陥りやすかったのではないかと思う。詳細を図36に示す。

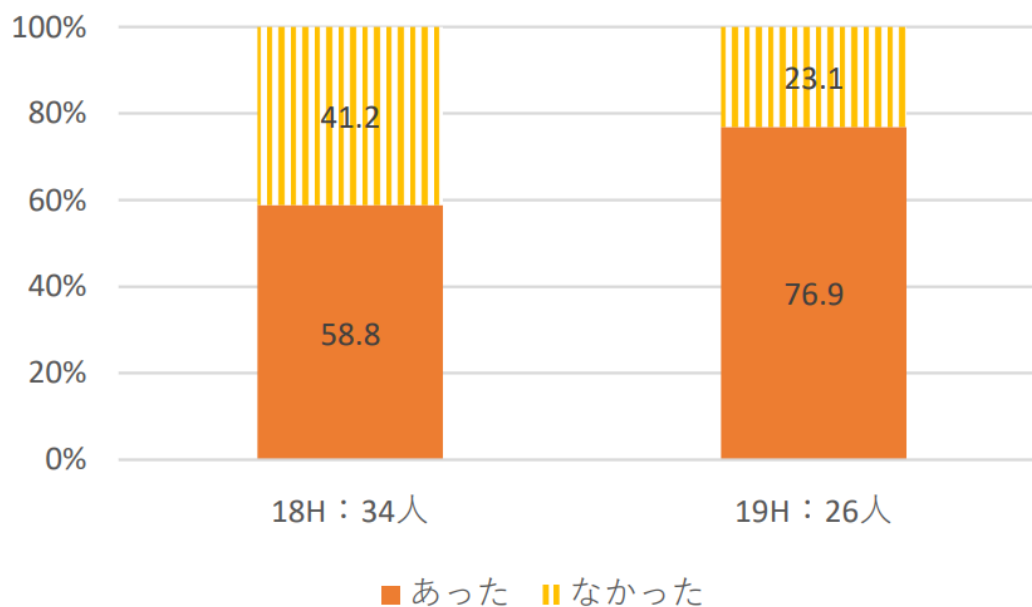


図36 自分だけ出来ていないなと陥ったことがあるか。両方の学生ともに半数以上が陥ったことがあると回答。18Hの学生の内“あった”は20人、“なかった”は23人。19Hの学生の内“あった”は20人、“なかった”は6人。塗りつぶしは“あった”、縦線は“なかった”をそれぞれ示す。グラフ内の2桁または3桁の小数点を含む値は、そのデータの割合(%)を表したものである。

- 授業を受けている時、孤独を感じやすかったですか？

授業に関してはあまり孤独は感じなかったようだ。ただ 19H は“はい”のほうが若干多く、18H は“いいえ”のほうが多い。基本的に授業は一人で受けることが多いが、音声やチャット等で学生同士が会話する機会があったのか、と推測する。詳細を図 37 に示す。

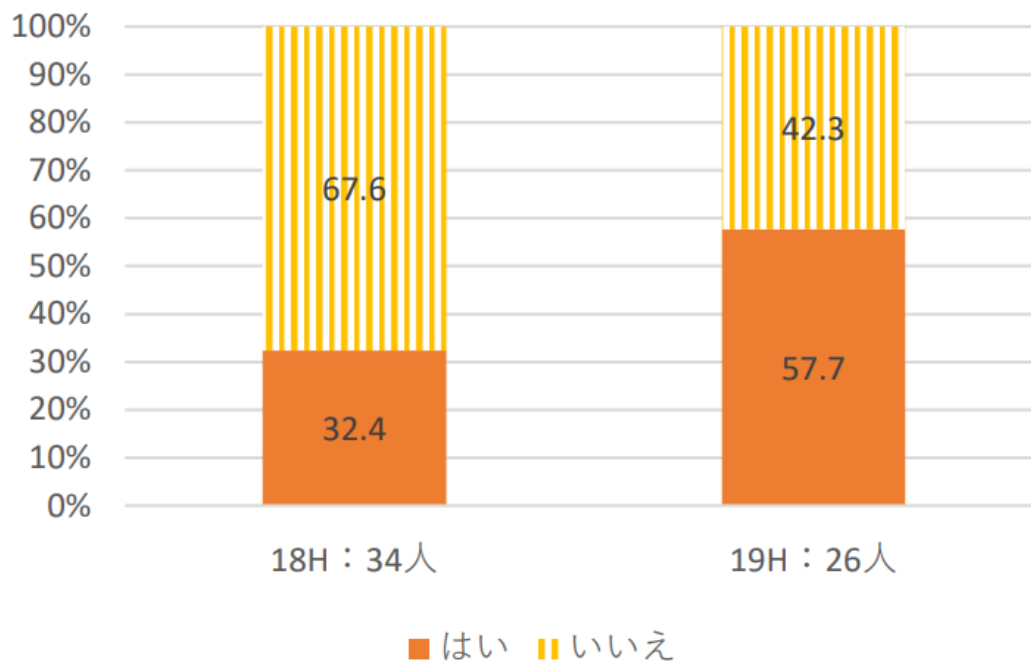


図 37 授業の際、孤独を感じやすかったか。18H は全体の 7 割が、19H は全体の 4 割が“いいえ”と回答。18H の学生の内“はい”は 11 人、“いいえ”は 23 人。19H の学生の内“はい”は 15 人、“いいえ”は 11 人。塗りつぶしは“はい”、縦線は“いいえ”をそれぞれ示す。グラフ内の 2 桁または 3 桁の小数点を含む値は、そのデータの割合 (%) を表したものである。

● 返事がリアルタイムでないことに不安を感じましたか？

質問したことのある学生も18Hより19Hの学生のほうが多かったが、返信がリアルタイムでないことに不安を感じるのは19Hの学生が多い。19Hの学生は積極的に質問をしていた。詳細を図38に示す。

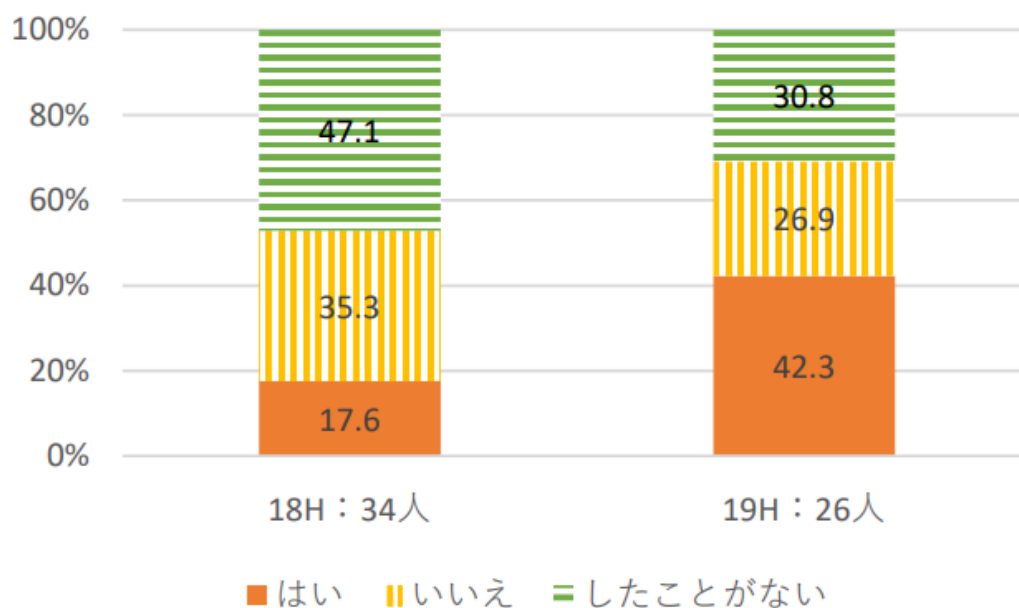


図38 質問の返答がリアルタイムでないことに不安を感じるか。18Hの学生の内“はい”は6人、“いいえ”は12人、“質問したことがない”は16人。19Hの学生の内“はい”は11人、“いいえ”は7人、“質問したことがない”は8人。塗りつぶしは“はい”、縦線は“いいえ”、横線は“質問したことがない”をそれぞれ示す。グラフ内の2桁または3桁の小数点を含む値は、そのデータの割合(%)を表したものである。

6.9 質問がしやすい

- 非対面のほうが質問しやすかったですか？

非対面だと相手の顔が見えなかったり、チャットで質問ができるため、“質問しやすい”の回答の割合が多いと想定していた。意外にも 18H の学生に関しては“変わらない” “しにくい”の割合が同じくらいだった。しかし 19H の学生は“しにくい”の回答の割合が多かった。詳細を図 39 に示す。

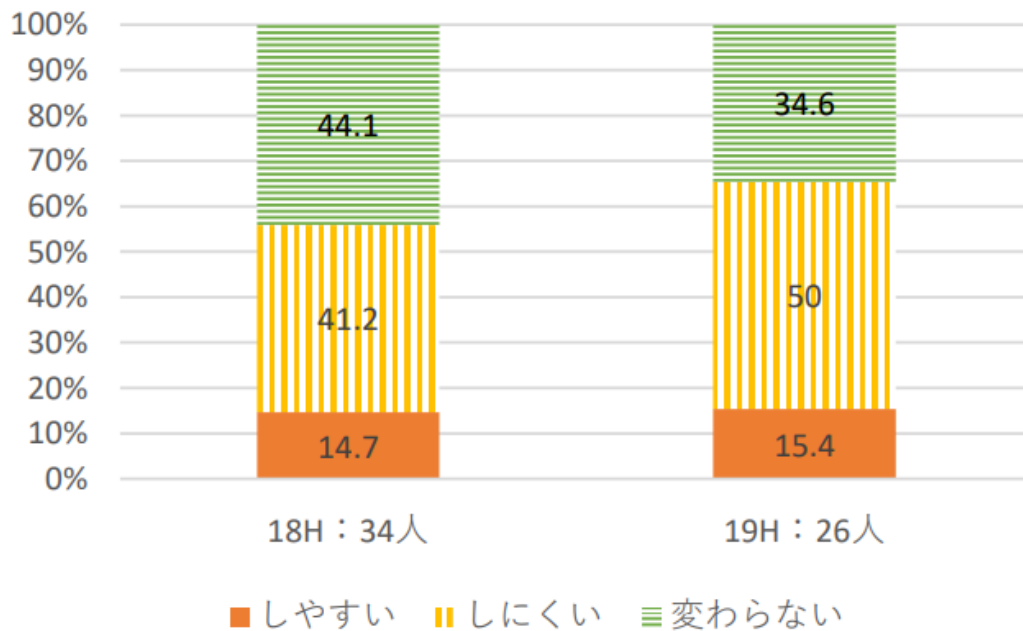


図 39 非対面のほうが質問しやすいか。両方の学生ともに“しやすい”の回答は低い。18H の学生の内“しやすい”は 5 人、“しにくい”は 14 人、“変わらない”は 15 人。19H の学生の内“しやすい”は 4 人、“しにくい”は 13 人、“変わらない”は 9 人。塗りつぶしは“しやすい”、縦線は“しにくい”、横線は“変わらない”をそれぞれ示す。グラフ内の 2 桁または 3 桁の小数点を含む値は、そのデータの割合 (%) を表したものである。

7 まとめ

仮説を、“課題が多く、大学や日々の生活に対して不安が多い”“持ち物・準備物が少ない為忘れ物をしない”“大学に行かないので人脈が広がらない、だらけやすい”“面と向かうことがないので質問がしやすい”とした。

アンケートの結果としては、“課題の量や周りに同じ境遇の学生がいない状況下で、自分だけが出来ていないように不安に感じていることが多かった”“準備物は、対面時の約半分に減少”“授業を受ける部屋と日々を過ごす部屋が変わらないこと、通学時間が無くなったことにより昼夜逆転生活を繰り返していた事により、だらける”“大学に行かないので、学科棟内で先輩・後輩・先生の姿を見かける機会も少なく、人脈は広がりづらい”という傾向だ。意外だったのは“質問しにくい”という回答が多かったこと。面と向かおうがなかろうがあまり関係ないという傾向となった。

非対面だと授業を受ける部屋も、生活する部屋も、同じになってしまう為生活リズムが崩れやすい傾向が見られる。遅刻に関しては意外な結果となった。授業の用意や移動時間が無い分、遅刻は減ると考えていたからだ。しかし、生活リズムが崩れていたり、そもそも忘れていたり、日付の勘違いだったり遅刻の割合は対面授業のころとほぼ差が無かった。

また、18Hの学生は、授業後にしていたことや課題をするタイミング、質問についてのデータを19Hの学生と見比べ全体的に余裕があるように感じた。18Hの学生は授業後にゲームをして、質問は“したことがない”割合が一番多かった。それ以外にも、課題をこなすうえで“量”よりも“提出期限”について不安を感じていた。それに比べ、19Hの学生は授業後に課題をし、積極的に質問をしていた。課題の量に不安を感じ、全体の約7割の学生が“多い”と回答した。統計結果をみて考察した結果、学生の学習意欲は低下傾向だ。その要因は授業や課題の内容も含むが、学生を取り巻く環境等の影響も含まれるという結果となった。

現時点で4年生の17Hの学生でさえ、大学生感が無いと感じる。いくら前年まで対面授業で18Hの学生は2年間、19Hの学生は1年間、大学に出入りしていたとはいえ、大学生をしているという感覚はかなり薄かったのではないだろうか。また、19Hの学生は大学に来たがらず、20Hの学生は大学に来たがっているという。

8 今後の課題

今回はアンケートの回答を強制ではなく任意としたので、データの全体数が少なかった。対面にて、授業前にアンケートを回答してもらった時間を作ることが出来れば、傾向は変わらなくとも、各学年のもう少し細かい違いなども比較することができたのではないかと考える。しかし、それでも統計を取るうえで問題ないと判断したのは、回答数がまだ少ないことと最終の回答期限を過ぎた今の統計結果に大きな相違点が無かったためである。

謝辞

本論文執筆及び研究作業等、研究室での活動の際以外にもご指示・ご協力いただきました大垣 斉准教授、情報教育システム研究室配属の学生、本学科生、当研究室のOB に深く感謝いたします。

参考文献

- [1] 文科省. 新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた大学等の授業の実施状況. https://www.mext.go.jp/content/20200717-mxt_kouhou01-000004520_2.pdf, 2020.
- [2] 文科省. 大学等における後期等の授業の実施方針等に関する調査結果 (地域別). https://www.mext.go.jp/content/20201002-mxt_kouhou01-000004520_3.pdf, 2020.

付録 A 付録 1

A.1 アンケートのお願い文

Subject :【情報システム学科】対面授業と非対面授業の実態調査（もしくは、卒業研究のアンケートへの回答のお願い）

情報システム学科 18H の学生の皆さんへ（19H の場合は変更する）

卒業研究のアンケートへのご協力をお願いについて

デザイン工学部情報システム学科 4 年 17H013 の市川結香と申します。

現在、「対面授業と非対面授業の実態調査」を卒業研究のテーマとして進めております。実態調査をするにあたりアンケートを取らせて頂いております。

アンケートの対象者は本学の情報システム学科の 2 年生、3 年生（18H・19H）となっております。大変お手数ですが送付（もしくはのちに送信する）するアンケートにお答えいただきご返答いただければ幸いです。

回答は 1 回しかできません、正しく行ってください。

必ず大学の ge アカウント（gmail）にログインしてから回答してください。 7 日以内に回答をお願いいたします。（まだ仮決め）

セクション数は 14 個、所要時間は 10 分程度です（実際にサンプルを作ってやってみました 9/17 現在）各項目の質問数が平均 20 個ほどあります。

尚、ご回答頂きましたデータにつきましては今回の卒業研究でのみ使用し統計的に処理され、特定の個人が識別できる情報として、公表されることはありません。

A.2 アンケートを始める前の注意書き

情報システム学科の 4 年生 17H013 市川結香です。こちらは 18H の学生用の卒業研究のアンケートになっています。ご協力お願いいたします。尚、ご回答頂きましたデータにつきましては今回の卒業研究でのみ使用し統計的に処理され、特定の個人が識別できる情報として、公表されることはありません。

必ず ge のアドレス（大学のアドレス）にログインした後、回答してください。 回答は 1 度しかできません。正しく行ってください。 回答期間は 1 週間となっております。ご注意ください。

また、授業の名前を書いていることに関しては、今年前期中に受けた授業全般を指し示します。記載がある質問はその指示に従い、正しく回答してください。

各項目の質問数が平均 20 個ほどあります。準備が整いましたら、次へを押してお進みください。

A.3 各セクションにおける注意書き

質問の意図が分かりづらい場合は各質問の文頭に「今年前期中は（に）」をつけてみてください。

質問の意味が分かりづらい場合があるため、各項目の要約等が書けるスペースに上記の文を記入しています。

付録 B 付録 2

B.1 アンケート本文

B.1.1 人脈について

- 同学科内の先輩に会ったこと（見たこと）がありますか
- 同学科内の後輩に会ったこと（見たこと）がありますか
- 同学科内の先輩と話したことがありますか
- 同学科内の後輩と話したことがありますか
- 同学科内に仲の良い先輩ができましたか（卒業生は含まない）
- 同学科内に仲の良い後輩ができましたか
- 同学科内に相談できる先輩はいますか（卒業生は含まない）
- クラスメイトで新たに仲良くなった人はいますか
- 他学科の学生に会ったことはありますか
- 自分の学科の教授に会ったことはありますか
- クラスメイトと授業時間外に会話をしたことがありますか
- クラブ・サークル・プロジェクト活動は行っていましたが
- クラスメイトと会ったことはありますか（ガイダンスは除く）
- 授業中にクラスメイトの顔を見ましたか（見たことがあるか）
- 授業中に教授の顔を見ましたか（見たことがあるか）
- 大学の人にはひとりもあっていない（ガイダンスは除く）
- 前期授業中は SNS をより多く活用しましたか（した・してない）
- 同学科内でオンライン食事会（飲み会も含）に参加してみたことはありましたか

B.1.2 課題について

- 課題の量は（多い・少ない・変わらない）
- ミニテスト等ありましたか（ある・ない）
- 課題をするうえで不安だったこと「複数回答」（量・質問・期限）
- 分からない問題があった時どうしましたか「複数回答」（先輩に聞く・友達に聞く・調べる・先生に聞く・諦める）
- 授業を受けている感じはしましたか（授業感が無い・特に変わらない）
- 授業のメモは取っていたか（ノートに・メモ帳に・特になにもしていない）
- 課題は何時ごろに提出していたのが一番多いか（朝方・昼・夕方・夜・夜中）
- 提出は（期限ギリギリ・余裕をもって）
- 課題の分からないところを友人に聞きあったりしたか（した・してない）
- その日出た課題はその日のうちに終わらせる？（はい・いいえ）
- 提出先はどこ？「複数回答」（webclass・mail・Googledrive の共有場所・その他）
- その他（の回答場所）
- 課題提出をさぼりたいと思ったことはあるか
- 成績の内、課題提出の割合は何パーセントでしたか？（はい・いいえ・分からない（シラバスを詳しく見ていない））

何時頃等の授業全般で判断をしなければならない質問に関しては一番割合の大きい選択を選んでもらうように注意書きはしてあります。

B.1.3 行動の自由度について

- 授業を受ける時の場所は（家・家以外）
- 授業を受けた後は何をしていたか（課題・ゲーム・外出（遊び目的）・外出・外出してない）
- 一日の中でしてる時間が一番長かったものは何ですか（ゲーム・運動・勉強・バイト・その他（YouTube・映画鑑賞を含む））
- 授業が始まる前の行動（ギリギリまで寝る・早くに起きて準備する）
- 大学に行きたいと感じたか（はい・いいえ）
- 全体的にみて起床時間は（6時・9時・12時・14時）
- 誰と暮らしてる？（一人暮らし・実家暮らし）
- 昼夜逆転してる？（はい・いいえ）
- 現在も昼夜逆転していますか
- 新しく夢中になったことはありましたか
- リアルタイムの授業が無い日、リアルタイム授業がそもそも無い場合でも早起きしましたか
- 大学に行ったことはありましたか
- 大学で授業を受けたことはありましたか
- 家の中ではマスクを着けていましたか
- マスクをしないほうが楽ですか
- 親族以外の人に今年前期中に会いましたか「複数回答」
- 非対面だと本館から15号館までの移動時間が無いが、その点は良きポイントか？

B.1.4 授業について

- 非対面授業の内、リアルタイムで行う授業はありましたか
- 非対面授業の内、リアルタイムかつGooglemeet（zoom含）等を使う授業はあったか
- 非対面のほうが授業は受けやすかったか（受けにくい・受けやすい・変わらない）
- 受けにくいと答えた方用の回答
- 非対面のほうがやる気はおきたか（おきた・おきない・変わらない）
- 非対面のほうが質問しやすかったか（しやすい・しにくい・変わらない）
- 単位の取れ具合（思っていたよりも取れていた・予想通り・思っていたよりも取れていなかった）
- 授業を受ける時の姿勢（椅子に座って・地べたに座って・立って・寝ころびながら）一番多いものを選んでもらう感じで
- 授業を受ける時の環境（食事しながら・ゲームしながら・何もしないで）
- 課題を進める時の姿勢（椅子に座って・地べたに座って・立って・寝ころびながら）
- 課題を進める時の環境（食事しながら・ゲームしながら・何もしないで）
- 今年前期授業の内さぼったことはあるか
- これまでの授業でサボったことはあるか
- 前年と比べて、授業をさぼりやすいと感じるか（感じる・感じない）
- 授業を受けている時孤独を感じやすかったか
- グループワークは（しやすい・しにくい・グループワークは無かった）
- 自分だけ出来ていないように感じたことはある（ある・ない）

- 課題提出 = 授業って感じだったか
- 授業中ミニテストはしたか
- 授業 1 回目はガイダンスだったか
- 資料のダウンロード方法を教えてもらえたりしましたか
- 授業中に雑談したか？（SNS・電話・ひとり事・無言）
- 先生に注意を受けたことは（ある・ない）
- 授業中は先生の顔はみた？（はい・いいえ）
- 教科書は使用した？（とても使う・全然使わない・そもそも購入していない・購入したが使っていない）
- 試験が無いことは良いこと？（ラッキー・そうでもない）
- 授業を受けている雰囲気は感じられた？（はい・いいえ）
- 授業らしいってなんだろう？「複数回答」（板書・広い教室・大人数・黒板・先生が見える・周囲に人がいるの見える・ざわざわした話し声が聞こえる・授業の前後に質問できる）
- 補講があった授業ってある？（ある・ない）

B.1.5 やる気について

- 非対面授業の方が授業へ対するやる気はどうだった（上がった・下がった）
- 授業へのやる気が下がった要因は（授業内容・友達・先生・図書館・学食・充実した通信環境）
- 大学の雰囲気は分かる？（はい・いいえ）
- 大学生感は感じる？（はい・いいえ）
- 非対面授業の方が課題へ対するやる気はどうだった（あがった・さがった）
- 課題へのやる気が下がった要因は（課題内容・友達・先生・図書館・学食・充実した通信環境）
- 大学生活を送っている感覚はありましたか？
- 生活のメリハリが無くなったと感じますか（去年までと比べて）
- メリハリを作っていた時間はどの時間帯だと思いますか？「複数回答」（休み、通学、空きコマ、放課後）
- 友達に頼んで自分の分の課題や出席を提出してもらったことはありましたか？
- 先生と直接会って授業を受けないということは、さぼりやすいと感じますか？

B.1.6 準備・持ち物について

- 準備に時間はかかったか（同じ・早い）
- 今年前期中の授業前の主な準備物（持ち物）は「複数回答」（筆記用具・PC・ノート（ルーズリーフ）・イヤホン・携帯電話・モバイルバッテリー・ファイル・救急セット・化粧ポーチ・お弁当・鍵・水筒・財布・傘・タオル・学生証）
- 受ける時の服装は（パジャマ・部屋着・私服・その他）その他回答欄もあり
- 受ける時身だしなみは整えたか（化粧（女性）・寝ぐせ直し（男性）・なにもしない）
- 教科書は買いましたか（買った、買ってない、買えなかった、貰い物）
- 去年までの主な持ち物はなんでしたか？「複数回答」（筆記用具・PC・ノート（ルーズリーフ）・イヤホン・携帯電話・モバイルバッテリー・ファイル・救急セット・化粧ポーチ・お弁当・鍵・水筒・財布・傘・タオル・学生証）

B.1.7 質問について

- 先生への質問はどうやってした（主に使っていたもの）（slack・メール・ハングアウト・webclass の掲示板・Twitter・その他）
- 質問で使っていたツール（全部）
- 使いやすかったツール（1-3 個）
- 質問は全て答えてもらえたか（はい・いいえ）
- リアルタイム授業中、質問がある場合はどのようにした（チャットで質問がある旨を伝える・カメラを on にして動作で知らせる・マイクを on にして知らせる・リアルタイム授業は無い・タイミングを逃した）
- 自分の意図とは違う返答が返ってきたときはあるか（ある・ない）
- 分からないことがあった時、積極的に質問した？（した・してない）
- 質問のタイミング（授業時間中・授業後）
- 質問の返答はすぐ返ってきた？（はい・いいえ）
- 返答がすぐではないことに不安を感じた？（はい・いいえ）
- やはりフィードバックは早めのほうがよい？（はい・いいえ・どっちでもいい）
- 文面だけの質問で苦労したことはある？（ある・ない）
- どんな苦労？（意味が正しく伝わらない・自分の言いたいことがうまく文にできない）
- 苦労したことない人はなぜ（質問したことない・タイミングを逃した・質問する勇気がない・質問しなくても調べれば出てくる）
- 質問の返答は長くて何日後に返ってきましたか（その日中、二日後、約 1 週間後、2 週間後）
- 質問することで分からない部分は解消されましたか？

質問したことが無い人も絶対中にはいるはずなので、質問の事を聞くこのセクションでは各質問の欄に「質問をしたことがない」という選択肢を入れています。

B.1.8 遅刻について

- 昨年までで遅刻したことある（ある・ない）
- ある場合の理由は（日にちの勘違い・夜更かし・忘れてた・あきらめている・急用があった・雨・交通の乱れ）
- 遅刻したことある？（ある・ない）
- 理由も回答（日にちの勘違い・夜更かし・忘れてた・あきらめている・急用があった）

B.1.9 非対面について

- 良い点「複数回答」（感染予防・遅刻しない・テストが無い・通学費用がいらぬ・忘れ物、落とし物をしない・日焼けをしない・荷物が重くない・良い点なんてない・その他）
- 対面授業と非対面授業どちらが不便？（対面・非対面・それほど違いは感じない） 授業・学生生活・日常生活全てを込みで考えた時
- それほど違いを感じないと答えた方用（自由回答）
- 非対面授業開始前または非対面で授業することを知った時、不安はあったか
- 後期授業はすでに始まっているが、前期より大変か（はい・いいえ）
- 後期も特別な理由が無ければ非対面だけど不安？（はい・いいえ（前期で慣れた）・いいえ（非対面のほうが楽）・いいえ（とくに理由はない））
- 授業の支障が出ない程度の安定した通信環境ですか

- 履修登録は分かりやすかったか
- 学科ガイダンスはありましたか
- 後期授業は既に始まっているが大変ですか？
- はいの方用

B.1.10 通信環境について

- 授業を受けるのに PC は必須？（はい・いいえ）
- 自宅に PC はいくつある？（デスクトップ・ラップトップ・タブレット含）
- その他の端末は（スマホ (iPhone 含)・ガラケー・持ってない）
- 自宅に PC ある？（はい・いいえ）
- 授業を受ける端末は主に（PC・携帯電話）
- 授業関係のファイル等は毎回ダウンロードしないといけない？（はい・いいえ）
- ファイルダウンロードを必要としない授業もある？（はい・いいえ）
- 課題を進めるうえで主に使っているアプリは何？「複数回答」(Word・Excel・Power Point・visual studio code・メモ帳・paiza.io・jcpad・その他)
- その他（の解答欄）

B.1.11 授業の復習について

- 一部授業を見返せる授業があったりもしたが、実際見返していたか（はい・いいえ・Discord による授業は行われていなかった）
- 見返せる授業はリアルタイムでも授業をしていたが参加したことはあったが（はい・いいえ・Discord による授業は行われていなかった）
- 授業の予習復習はした（はい・いいえ・Discord による授業は行われていなかった）(総合的にみて)
- Discord による授業は受けやすかったですか？（はい・いいえ・Discord による授業は行われていなかった）
- Discord による授業は理解しやすかったですか？（はい・いいえ・Discord による授業は行われていなかった）
- Discord による授業の質問はしやすかったですか？（はい・いいえ・Discord による授業は行われていなかった）

B.1.12 先生について

- 個人的な話ができる先生はいる？（はい・いいえ）
- 仲良しな先生はできた？（はい・いいえ）
- #なべの存在を知っている？（はい・いいえ）
- #なべとはどんなものだと思っている？（自由回答）
- 個人的な相談に乗ってくれる先生はできましたか？
- 嫌い(苦手)な先生はいますか？
- なぜ、嫌い(苦手と感じますか?)「複数回答」(教え方が下手・怒っているように感じる・質問しづらい雰囲気・質問しても教えてくれない・生理的に合わない・そもそも授業感がない)
- 特定の先生から気にかけてもらえているな。と感じることはありましたか？

付録 C 付録 3

C.1 文科省関係のグラフ

本年度前期の授業実施の割合を図 40 に、後期の授業実施の割合を図 41 にそれぞれ示す。実施授業の詳細は“対面”・“非対面”・“対面と非対面の併用”とする。

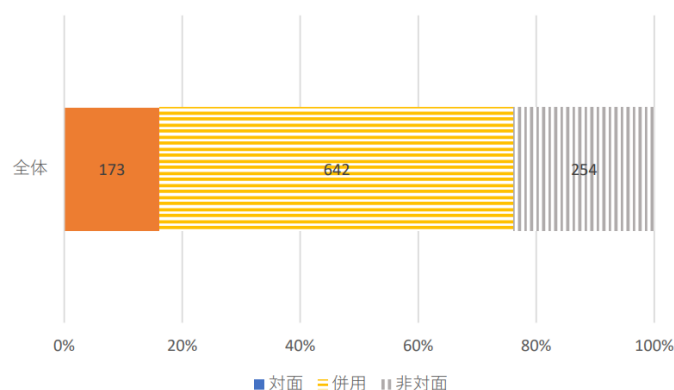


図 40 前期授業について。新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた大学等の授業の実施状況。2020 年 7 月 1 日時点における授業の実施状況について。図中の“全体”とは国立大学、公立大学、私立大学、高等専門学校を含む 1069 校を示す。“対面授業”は 173 校、“併用”は 642 校、“非対面”は 254 校。塗りつぶしは対面、横線は併用、縦線は非対面を示す。グラフ上の数値は校数。このグラフの“対面”“非対面”とは、全面的に“対面”“非対面”という意味。

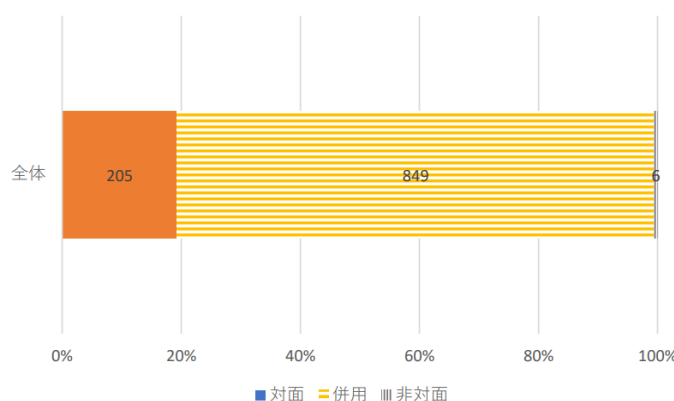


図 41 後期授業について。大学等における後期等の授業の実施方針等に関する調査結果(地域別)。調査期間は 2020 年 8 月 25 日-9 月 11 日。図中の“全体”とは国立大学、公立大学、私立大学、高等専門学校を含む 1060 校を示す。対面授業は 205 校、併用は 849 校、非対面は 6 校。塗りつぶしは対面、横線は併用、縦線は非対面を示す。グラフ上の数値は校数。このグラフの“対面”“非対面”とは、全面的に“対面”“非対面”という意味。